

平成 27 年度 事業実績報告書



(平成 27 年度助成事業の活動の様子)

平成 28 年 12 月

公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金

目 次

○ 漁業担い手育成基金の概要	1
1 組 織	2
2 平成 27 年度事業実績総括表	3
3 平成 27 年度事業実施状況	4
4 実施結果報告	8
1 漁業担い手確保対策事業	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	8
(2) 水産高校等連携育成事業	13
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	16
3 青年等漁業者資質向上活動支援事業	
(1) 研究グループ等活動事業	
ア 研究実践活動	18
(2) 青年等交流活動事業	
ア 情報交換会の開催等	49
(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）	52
5 漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績	58
6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程	60
7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則	62

○ 漁業担い手育成基金の概要

1 目的

本基金は、漁業生産を担う漁業者の確保及び育成を図るため、漁業を志向する青年等の就業促進及び青少年等の漁業に対する理解の向上や青年等漁業者の漁業経営及び漁家生活等の改善向上を図るための自主的活動等に対して支援を行い、もって本県漁業・漁村の健全な発展に寄与することを目的とする。

2 事業の内容

前記の目的を達成するため、次の事業を行います。

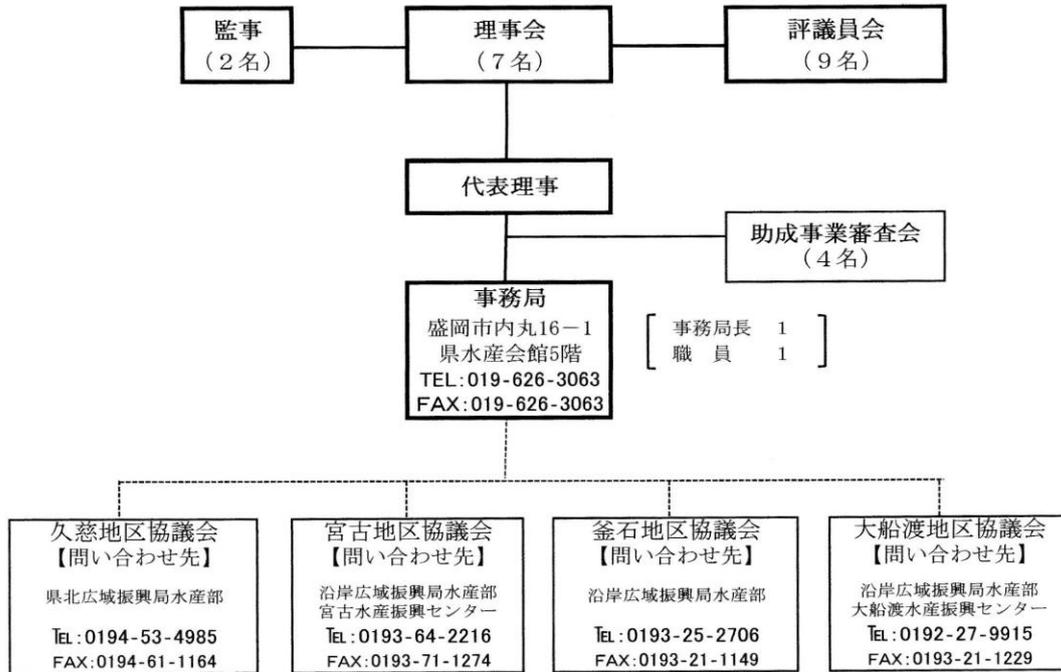
- (1) 漁業担い手の確保に関する支援事業
- (2) 新規漁業就業者等の育成に関する支援事業
- (3) 青年等漁業者の経営等の改善向上に関する組織活動支援事業
- (4) 地区における漁業担い手対策を総合的に推進するための協議会活動支援事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 基金の概要

- (1) 名 称 公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金
- (2) 設立年月日 平成3年10月1日（平成24年4月1日から公益法人に移行）
- (3) 所在地 盛岡市内丸16番1号（岩手県水産会館内）
- (4) 設立根拠法 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第4条
- (5) 代表者 岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長 大井誠治
- (6) 基本財産 510,000千円
- (7) 出捐状況

区 分	出捐総額(百万円)	比率(%)	摘 要
県	250	49	
市 町 村	75	15	沿岸12市町村
漁業団体	175	34	27漁協、連合会等
そ の 他	10	2	海づくり大会寄付金
計	510	100	

1 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金の組織



役員及び評議員(H26.6.23現在)

役員

代表理事	大井誠治	県漁連会長
理事	五日市修三	県農林水産部技監
理事	藤島純悦	県漁業共済組合専務
理事	工藤大輔	県議会議員
理事	横山英信	岩手大学教授
理事	小野寺恵	メグミプランニング代表
理事	伊藤正明	県内水面漁連専務
監事	向井田敏宏	県町村会事務局長
監事	傳勝司	県信漁連常勤監事

評議員

評議員	岩脇洋一	県信漁連会長
評議員	門坂繁樹	JF共水連岩手支店長
評議員	佐藤信逸	山田町長
評議員	及川勝幸	岩手県漁業士会長
評議員	尾前孝一	Jf漁青連副会長
評議員	熊谷節子	県漁協女性部連絡協議会副会長
評議員	吉田敏男	県産業教育振興会事務局長
評議員	五日市知香	パイロットフィッシュ代表
評議員	大森正明	元県農林水産部技監

平成27年度漁業担い手育成基金事業実績総括表

事業区分	実施主体	件数	決算額(円)	備考
1 漁業担い手確保対策事業		14	989,420	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	漁業協同組合、水産高校	10	475,320	
(2) 水産高校等連携育成事業	水産高校	3	389,160	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業		1	124,940	
2 漁業担い手育成対策事業		2	576,000	
(1) 新規漁業就業者交流事業		0	0	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	漁船漁業経営体	2	576,000	
(3) OJT研修支援事業		0	0	
3 青年等漁業者組織活動支援事業		17	2,974,618	
(1) 研究グループ等活動事業		9	2,190,608	
① 研究実践活動	漁業青年部・研究グループ	9	2,190,608	
② 研修活動	漁協青年部	0	0	
③ 資格取得活動		0	0	
(2) 青年等交流活動事業		3	350,000	
① 情報交換会の開催	漁業士会、漁協女性部連絡協議会	3	350,000	
② 地区活動研究実績発表大会		0	0	
(3) 地域リーダ一研修事業(漁業士会活動等)	漁業士会本部、支部	5	434,010	
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業		0	0	
合計		33	4,540,038	

3 平成 27 年度事業実施状況

1 概況

東日本大震災から 5 年が経過し、本県漁業の復旧状況は、漁業生産の基盤となる漁船や養殖施設は概ね復旧している状況にあり、また、生産面では、ワカメ・コンブの海藻類の養殖に加え、貝類養殖についても徐々に出荷が始まっています。また、背後施設等復旧、復興住宅の建設、住宅の高台移転等も始まっています。しかしながら生産は、「がんばる養殖」等のグループで行われており、個人への移行が遅れている状況下にありますが、本年度末から徐々に終了する状況となっています。しかしながら、個人経営体数は、平成 25 年度（第 13 次）漁業センサスによると前回の 5,204 に比べ 3,278 と 63% と大幅に減少しており、担い手の確保が急務となっています。

平成 27 年度の事業運営におきましては、これまで特認事業として実施してきた養殖漁業復興活動支援事業については 5 年が経過し、漁業復興について一区切りとなる時期となり、また、経営上継続は困難なことから募集を停止したところです。

基金の本来の事業である漁業担い手確保・育成事業につきましては徐々に拡大し、支援を継続するとともに、国の漁業復興担い手確保支援事業の活用により新たに新規漁業就業者 50 名（漁家子弟 27 名、未経験者 23 名）の研修を支援するなど、本県漁業担い手の維持・確保に努めました。

2 事業実施状況

(1) 漁業担い手確保対策事業

ア 小中学生漁業体験・学習事業

事業内容	対象団体数	延回数	延日数	参加人数	助成額（円）
1 漁業体験学習等	10	13	20	474	375,320
2 水産高校等 1 日体験入学	2	2	2	290	100,000

イ 水産高校等連携育成事業

事業内容	対象団体数	実施期間	延日数	参加人数	助成額（円）
海洋環境調査、水産加工品開発	3	周年	25	58	389,160

ウ 漁業志向青年等体験学習事業

事業内容	実施団体数	実施日数	参加人数	事業費（円）	助成額（円）
体験漁業の実施	1	2	2	124,940	124,940

(2) 漁業担い手育成対策事業

ア 新規漁業就業者技術研修事業

指導者数	研修生数	研修内容	延研修日数	事業費（円）	助成額（円）
2	2	コンブ養殖、延縄漁業、採介藻漁業	72	576,000	576,000

(3) 青年等漁業者資質向上活動支援事業

ア 研究グループ等活動事業

(ア) 研究実践活動

地区	研究課題等	実施団体	実施期間	事業費 (円)	助成額 (円)
大船渡	マガキ天然採苗試験	広田湾漁協青壮年部 米崎支部	7月～3月	285,120	285,120
大船渡	CSA と連携した養殖ホ タテの販路拡大	綾里漁協小石浜青年 部	8月～10 月	210,120	200,000
釜石	エゾイシカゲガイ採 苗試験	釜石湾漁協青年部	9月～3月	286,244	229,000
釜石	未利用資源を使用し た加工品・料理の開発	釜石湾漁協白浜浦女 性部魚食普及研究グ ループ	5月～3月	268,190	300,000
釜石	マガキシングルシー ド養殖試験	新おおつち漁協青年 部	5月～3月	189,877	189,877
宮古	マボヤ人工採苗技術 導入試験	大沢養殖研究会	11月～1 月	362,330	350,000
宮古	宮古湾マガキ天然採 苗試験	宮古漁協青壮年部	7月～3月	121,067	121,067
久慈	マガキシングルシー ド養殖試験	野田漁友会	4月～3月	275,544	275,544
久慈	アワビ中間育成試験 及び種苗生産施設等 視察研修	小子内漁業研究会	4月～3月	259,200	240,000

イ 青年等交流活動事業

(ア) 情報交換会の開催等

地区	活動内容	実施団体	実施時期	参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
全県	漁業士連絡協議会及 び全国青年女性漁業 者交流大会	岩手県漁業 士会	3月	4	109,930	100,000
宮古	未婚漁業者等交流会	宮古市漁業 就業者育成 協議会	2月	11	412,002	200,000
宮古	県外開催の情報交換 会等への出席	東京都	3月	3名	101,400	50,000

ウ 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

地区	活動内容	実施団体	実施時期	延べ 参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
全県	岩手県漁業士会 大船渡支部内の 新規就業者の能 力向上研修会	岩手県漁業 士会	1月	38	227,772	100,000
全県	漁業士会総会後 の研修会	岩手県漁業 士会	7月	92	226,506	100,000
全県	東日本女性漁業 士交流会	岩手県漁業 士会	8月	37	293,077	100,000
全県	郡別研修会	漁協女性部 連絡協議会	1月	580	125,496	100,000
大船渡	宮城県漁業士会 北部支部との交 流	岩手県漁業 士会大船渡 支部	8月	15	34,010	34,010

(4) 漁業復興担い手確保支援事業・事務受託（漁業担い手対策推進事業）

本県漁業担い手の維持・確保を図るため、被災した若青年漁業者の技能向上・生活の確保及び新規就業者の確保を内容とする漁業復興担い手確保支援事業について、事業主体である全国漁業就業者確保育成センターからの委託を受けて一次受入機関である漁協の計画策定・精算事務の指導を行った。

ア 平成 27 年度新規計画策定指導実績

事業区分	受入機関数	研修生数	計画事業費（円）
2 新規就業者（漁家子弟）確保支援 事業（研修支援 9.4 万円/月）	26 機関	26 人	61,322,611
3 新規就業者（未経験者）確保支援 事業（研修支援 9.4 万円/月～18.8 万円/ 月）	17 機関	18 人	73,226,370
4 資格等習得支援事業（講習会等の 受講料等の支援）	—	延 68 人	4,500,195
計	延 43 機関	延 112 人	139,049,176

イ 平成 27 年度精算事務指導実績

事業区分	研修生数	精算額 (円)
2 新規就業者 (漁家子弟) 確保支援事業 (研修支援 9.4 万円/月)	53 人	41,245,141
3 新規就業者 (未経験者) 確保支援事業 (研修支援 9.4 万円/月～18.8 万円/月)	29 人	32,728,391
4 資格等習得支援事業 (講習会等の受講料等の支援)	延 68 人	4,500,195
計	延 157 人	78,473,727

4 実施結果報告

1 (1) 小中学生漁業体験・学習事業

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p style="text-align: center;">高田高等学校</p>  <p style="text-align: center;">海洋科学コース</p>  <p style="text-align: center;">食品科学コース</p>	<p>「岩手県立高田高等学校 1 日体験入学」</p> <p>本校の教育内容を中学生に理解してもらい、中高連携した進路指導をおこなうことを目的に実施する。</p> <p>① 海洋科学コース C型艇による操船 (大船渡湾内)</p> <p>② 食品科学コース パン製造及びサンマ味付缶詰製造 (本校実習場)</p>	<p>① 大船渡湾内</p> <p>② 本校施設</p>	7/31	中学生 38名
<p style="text-align: center;">岩手県漁業士会 大船渡支部</p>  <p style="text-align: center;">蛸ノ浦小学校 5、6年生</p>  <p style="text-align: center;">気仙小学校 5年生</p>	<p>「漁業担い手確保対策事業」</p> <p>管内の小中学校などを対象に地域の漁業について体験を通じてより一層の理解を深めることを目的とする。</p> <p>① 蛸ノ浦小学校・新巻鮭づくり サケに関する知識を学び、地元で獲れたサケを使った新巻づくりを体験する。指導漁業士2名参加。</p> <p>② 気仙小学校・新巻鮭づくり サケに関する知識を学び、地元で獲れたサケを使った新巻づくりを体験する。指導漁業士1名参加。</p>	<p>① 大船渡市</p> <p>② 陸前高田市</p>	<p>① 11月</p> <p>② 12月</p>	<p>① 小学生 17名</p> <p>② 小学生 12名</p>

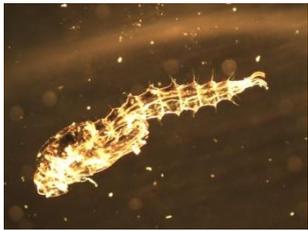
<p>綾里漁業協同組合</p>  <p>清水輪定置網起こし</p>  <p>鮭新巻作り作業</p>  <p>鮭新巻作り仕上げ作業完成</p>	<p>「大船渡市綾里地区体験学習・少年水産教室」 漁業に対する理解と関心を高めるため、綾里中学校1・2年生を対象に漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 洋上見学・定置の網起こし体験 ② 「鮭の日」・新巻づくり体験</p>	<p>① 綾里小石浜・清水輪定置漁場 ② 綾里漁協荷捌施設</p>	<p>① 11/4 ② 11/11・11/16</p>	<p>① 中学生20名 その他6名 計26名 ② 中学生22名 その他14名 計36名</p>
<p>釜石湾漁業協同組合</p>  	<p>「平田地区少年水産教室」 釜石地域の水産業への理解と憧れを因るため、釜石市立平田小学校5年生28名を対象に、漁業体験学習を実施した。</p> <p>① サケふ化放流学習 サケふ化放流事業及び定置網漁業等の説明（講義：漁協職員等） ② サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（えら、内臓除去、洗浄、塩蔵） ③ サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（洗浄、乾燥）</p>	<p>①～③ 平田漁港</p>	<p>① 12/2 ② 11/25 ③ 12/2</p>	<p>① 小学生28名 その他8名 計36名 ② 小学生28名 その他9名 計37名 ③ 小学生28名 その他8名 計36名</p>

<p>三陸やまだ漁業協同組合</p>  <p>大浦小学校 2回目</p>  <p>轟木・織笠小学校 1回目</p>	<p>「山田町内の小学生を対象とした水産教室」 水産業に対する理解と関心を高めるために管内の小学生を対象に体験学習（新巻鮭づくり）を実施。</p> <p>体験学習「新巻鮭づくり」 第1回目・鮭の解体作業・塩漬け作業 第2回目・塩抜き洗浄作業・乾燥準備作業</p> <p>① 大浦小学校 ② 織笠・轟木小学校</p>	<p>① 大浦 荷捌き施設 ② 織笠 ふ化場</p>	<p>① 11/30・12/4 ② 11/30・12/7</p>	<p>① 大浦小学校 6年生5名 計5名 ② 織笠小学校 5年生8名 6年生6名 計14名 轟木小学校 5年生5名 6年生5名 計10名</p>
<p>宮古水産高等学校</p>  <p>海洋技術科「プランクトン観察」</p>  <p>食品家政科「かまぼこ作り」</p>  <p>食物科「調理実習」</p>	<p>「平成 27 年度中学生一日体験入学」 下閉伊管内を中心とした、中学3年生を対象とし、校内外の施設見学及び各科の実習室等において特色を活かした体験的学習を実施する。この体験をとおして進路選択の参考にしてもらおうとともに、水産業の重要性を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋技術科…海翔体験航海・プランクトン観察実習 ・食品家政科…水産食品加工実習・手芸制作実習 ・食物科…調理体験等 	<p>岩手県立宮古水産高等学校</p>	<p>7/31</p>	<p>中学生 229名</p>

<p>津軽石かき養殖組合産直部会</p>  <p>磯体験</p>  <p>かきの殻むき体験</p>	<p>「赤前小学校児童・体験学習」 地域の水産業（かき養殖）等への理解と関心を高めるため、地域の小学生を対象に体験学習を実施した。</p> <p>① 磯体験 赤前小学校児童を対象に磯の生物観察を行うと共に、磯の環境・生態について説明を行った。</p> <p>② かきの殻むき体験 赤前小学校児童を対象にかきの殻むき体験を行ったほか、かき養殖、水産業全般、環境保全、震災復興等に係る生産者の思いをインタビューした。</p>	<p>① 赤前地区海岸 ② 津軽石かき養殖部会作業施設</p>	<p>① 6/3 ② 11/17</p>	<p>① 小学生 30名 その他 2名 計 32名 ② 小学生 8名 その他 4名 計 12名</p>
<p>重茂漁業協同組合</p>  <p>塩漬け作業の様子</p>  <p>鮭つるし作業の様子</p>	<p>「重茂小学校新巻鮭づくり体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新巻づくりの体験学習を通して、水産業についての理解を深め、地域の産業である水産業を発展させようとする後継者の育成に資する。 ・海を中心とした郷土の自然や環境と、そこに棲む生物との結びつきに理解を深め、郷土の自然を愛し、環境を守ろうとする意識を育てる。 <p>① ・鮭の解体 ・塩漬け作業</p> <p>② ・洗い ・乾燥準備作業</p>	<p>① 里漁港、漁港関連施設 ② 重茂小学校体育館脇</p>	<p>① 12/3 ② 12/10</p>	<p>① 小学生 16名 その他 21名 計 37名 ② 小学生 16名 その他 16名 計 32名</p>

<p>種市南漁業協同組合</p>  <p>ウニ剥き</p>  <p>塩ウニ瓶詰め</p>	<p>「宿戸地区 少年水産教室」 宿戸地区中学1年生(約17人)を対象に、地区の特産物であるウニ採捕および加工体験の体験学習を通じ、地域漁業者との交流を深め次代の漁業担い手育成を図った。</p> <p>① ウニ採り体験 ② 塩ウニづくり体験 ③ 塩ウニ瓶詰め作業体験</p>	<p>洋野町宿戸</p>	<p>8/2～4</p>	<p>中学生 17名 計17名</p>
<p>久慈市漁業協同組合</p>  <p>屋形定置網起こし見学</p>  <p>船上磯観察</p>	<p>「久喜地区少年水産教室」 久喜地区4～6年生を対象に体験活動により漁業に対する理解と関心を高め、漁業担い手の維持確保を図るため漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 漁業体験学習 屋形定置網起こし見学、船上磯観察、船漕ぎ、ウニ採り、ウニ剥き体験 ② ・鮭いくらづくり ・鮭新巻づくり 鮭いくらづくり、鮭新巻づくり ③ ・鮭新巻づくり 鮭新巻塩洗浄、鮭新巻干し</p>	<p>① 久喜港、荷捌き施設、屋形定置漁場 ② 久喜港、荷捌き施設、 ③ 久喜小学校</p>	<p>① 7/18 ② 11/17 ③ 11/24</p>	<p>① 小学生34名 その他57名 計91名 ② 小学生10名 その他23名 計33名 ③ 小学生10名 その他14名 計24名</p>

(2) 水産高校等連携育成事業

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="209 302 379 331">高田高等学校</p>  <p data-bbox="188 633 400 663">生態調査(ドジョウ)</p>  <p data-bbox="164 920 424 949">生態調査(プランクトン)</p>  <p data-bbox="220 1211 368 1240">アイナメ調査</p>  <p data-bbox="220 1447 368 1476">新商品の試作</p>  <p data-bbox="244 1738 344 1767">缶詰実習</p>  <p data-bbox="244 1973 344 2002">缶詰販売</p>	<p data-bbox="475 302 975 573">「平成27年度 水産クラブ研究活動」 水産クラブ研究活動を通じて、水産・海洋等が抱える問題や、水産・海洋に関心を持ちながら、自らテーマを設定し、そのテーマに沿って解決出来る能力を育成する。</p> <p data-bbox="475 633 975 824">① 【広田湾及び気仙川河口付近における生態調査及びプランクトン調査】 気仙川河口付近から下流域における生息生物を観察した。また、プランクトンについて調査をおこなった。</p> <p data-bbox="475 875 975 981">② 【アイナメの生態調査】 広田湾内にある漁港において、釣りによるアイナメの生態調査をおこなった。</p> <p data-bbox="475 1077 975 1245">③ 【新商品の試作・開発】 特産品であるエゾイシカゲガイについて、地産地消、また更なる消費拡大目指して新商品の開発に取り組んだ。</p>	<p data-bbox="1007 302 1177 611">① 気仙川河口付近～下流域 ② 広田湾 泊漁港 大陽漁港 後浜漁港 ③ 本校食品実習場</p>	<p data-bbox="1201 302 1310 376">① ～③ 4月～2月</p>	<p data-bbox="1342 302 1433 331">各8名</p>

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="193 253 399 286">久慈東高等学校</p>  <p data-bbox="256 539 331 568">ホヤ殻</p>      <p data-bbox="220 1977 368 2007">ホヤ殻の加工</p>	<p data-bbox="469 253 968 320">「久慈の特産物を利用した新しい水産加工品の開発」</p> <p data-bbox="469 331 968 483">今年度、岩手県立久慈東高校総合学科海洋系列では、全校生徒、職員を対象にホヤに関するアンケートを実施し、その結果以下の点が明らかになった。</p> <p data-bbox="469 495 979 647">①高校生の約半数がホヤを食べたことがない、②高校生の8割以上が嫌い、③ホヤの外部形態を不快に思う高校生が多い、④食わず嫌いのホヤ嫌いが多い。</p> <p data-bbox="469 658 968 842">以上の結果を受けて、ホヤの利用拡大が図れるように「ホヤが苦手な方にも、美味しく食べられて歩留まり向上も兼ねた加工品を開発する」ことに取り組んだ。</p> <p data-bbox="485 853 600 882">【ホヤ殻】</p> <p data-bbox="469 893 979 1240">一般的に可食部として消費されている中身を加工することよりも、ホヤの殻を利用することを優先して取り組みをした。ホヤ殻は、産業廃棄物として処分しなければならないので、処分にコストがかかる。ホヤ殻の投棄量を減らす利用方法を考えた。野菜の根の部分食用とする「根菜」のようにホヤの殻の根の部分を食べられるかもしれないと考えた。</p> <p data-bbox="485 1252 767 1281">【ホヤ殻の加工と食味】</p> <p data-bbox="469 1292 979 1402">ホヤの殻の根の部分を取り、千切りにするとアワビに似た食味で、コリコリとしっかり噛み切れて美味であった。</p> <p data-bbox="485 1413 968 1442">【ホヤの殻における根の可食部分の割合】</p> <p data-bbox="469 1453 979 1675">久慈産の天然マボヤ生9個体合計の全重量に対する殻の重量の割合：28%、殻重量に対する根の可食部の割合：26%。個々の殻重量に対する根の可食部割合は16%から35%と個体差が大きかった。</p> <p data-bbox="485 1686 794 1715">【ホヤ殻の根の成分分析】</p> <p data-bbox="469 1727 979 1836">根には通常の可食部（身）と比べ、炭水化物、食物繊維が含まれており、100g中4.3g含まれていた。</p> <p data-bbox="485 1848 935 1877">【ホヤの殻における根以外の可食部】</p> <p data-bbox="469 1888 979 1955">殻の裏に付く膜（筋膜）が、コリコリとした食感で美味であった。</p> <p data-bbox="485 1966 655 1995">【筋膜の利用】</p> <p data-bbox="469 2007 935 2036">油で焼く加熱方法が評価が高かった。</p>	久慈東高等学校	5月 ～12月	海洋科学系列 2、3年 20名

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="180 253 411 286">宮古水産高等学校</p>  <p data-bbox="164 555 427 633">プランクトンネット曳網 (100µm目合い)</p>  <p data-bbox="260 891 331 925">採苗器</p>   <p data-bbox="172 1395 443 1473">採苗器コレクタについての 幼生を鏡中</p>  <p data-bbox="164 1720 427 1753">付着幼生 9月17日確認</p>  <p data-bbox="164 1989 427 2022">付着幼生 10月1日確認</p>	<p data-bbox="483 253 882 286">「宮古湾でのカキ天然種苗研究」</p> <p data-bbox="467 297 970 521">大震災津波により大打撃を受けたマガキ養殖を復興するにあたり、他県からの種苗購入に頼らず、地元産のマガキを採苗して地元生まれの地元カキ宮古オリジナルブランドの生産を目指して取り組んだ。</p> <p data-bbox="467 533 970 880">採苗地の調査選定から、採苗・育成・床上げ、本養成 まで、宮古漁協・カキ養殖漁家・宮古水産振興センター・岩手医大の皆様からアドバイスを受けながら実施し、9月に「岩手県水産クラブ研究発表会」12月に「宮古地区高校生研究・意見発表会」そして1月に「課題研究発表会」でその成果を校内外の皆さんに発表報告した。</p> <p data-bbox="467 891 970 1126">5月から母貝の分布密度調査の後、浮遊幼生の調査(5~12月)と採苗器への付着調査(6~11月)を継続した。実体顕微鏡を使用してカキ幼生の付着を熱心に探し、10月に数個ながら付着を確認できた。</p> <p data-bbox="467 1137 970 1440">生徒は、校外の方との交流によって自分たち水産高校生への期待を感じ、天然稚貝生存条件の複雑さ、緻密な継続調査とデータ蓄積の大変さを経験・理解したことで漁業を身近に感じ、興味関心を高めることができた。今年度の課題を大切にして、今後もカキ養殖についての調査研究を継続したい。</p> <p data-bbox="483 1485 603 1518">【講師名】</p> <p data-bbox="467 1529 810 1563">指導漁業士：飛鳥方 克吉</p> <p data-bbox="467 1574 842 1608">宮古漁業協同組合：芳賀 徹</p> <p data-bbox="467 1619 938 1653">宮古水産振興センター：野呂 忠勝</p> <p data-bbox="467 1664 842 1697">岩手医科大学：松政 正俊</p>	宮古湾	9月 ~1月	13名

(3) 漁業志向青年等体験学習事業

行 事 名	宮古地区体験漁業実施事業		
実 施 主 体	宮古市漁業就業者育成協議会	参加者数	合計 2 名
総 事 業 費	1 2 4, 9 4 0 円	うち基金助成額	1 2 4, 9 4 0 円
事業の目的	漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験を実施し、漁業就業意識を高める。		
実施時期、場所、参加者等	<p>○養殖漁業体験事業第 1 回 【日時】 平成 28 年 1 月 15 日～1 月 16 日 【場所】 宮古市内の養殖漁業、及びこれらに付随する漁港及び陸上作業施設等 【参加者】 漁業就業者 (0 人)</p> <p>○養殖漁業体験事業第 2 回 【日時】 平成 28 年 1 月 22 日～1 月 23 日 ※暴風雪の影響で平成 28 年 1 月 29 日～1 月 30 日に延期 【場所】 宮古市内の養殖漁業、及びこれらに付随する漁港及び陸上作業施設等 【参加者】 漁業就業希望者 (計 2 人)</p>		
事業内容 (結果)	<p>当協議会で養殖漁業の漁業体験を企画し、漁業就業を希望または検討する者を対象に公募を行い、青年漁業士・指導漁業士の指導の下、希望する漁業種類の漁業体験を実施した。</p> <p>○ホタテ養殖漁業体験 【日時】 平成 28 年 1 月 29 日 (金) 5 : 00～10 : 00 【場所】 日出島漁港、養殖施設 (海上)、及び陸上作業施設 【参加者】 1 名 【内容】 ホタテガイの漁獲、集荷の各作業</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1 月 29 日 水揚作業 (日出島養殖漁場)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1 月 29 日 水揚作業 (日出島漁港)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>1 月 29 日 付着物除去 (日出島漁港)</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		

○カキ養殖漁業体験

【日時】 平成 28 年 1 月 29 日 (金) 7 : 00 ~ 15 : 00

【場所】 宮古港 (高浜)、養殖施設 (海上)、及び陸上作業施設

【参加者】 1 名

【内容】 カキ漁獲、カキむき、出荷の各作業



1 月 29 日 水揚作業 (高浜養殖漁場)



1 月 29 日カキ剥き (高浜カキ処理施設)

1 月 29 日出荷作業 (高浜カキ処理施設)

事業内容
(結果)

○ワカメ・コンブ養殖漁業体験

【日時】 平成 28 年 1 月 30 日 (金) 7 : 30 ~ 11 : 30

【場所】 音部漁港、養殖施設 (海上)、及び陸上作業施設

【参加者】 1 名

【内容】 ワカメ・コンブの間引き作業



1 月 30 日漁具装着 (音部養殖漁場)

1 月 30 日ワカメ間引作業 (音部養殖漁場)



1 月 30 日早取りワカメ出荷 (音部作業施設)

1 月 30 日採苗器作成 (音部作業施設)

3 (1) 研究グループ等活動事業

ア 研究実践活動

課 題 名	マガキ天然採苗試験		
実 施 主 体	広田湾漁業協同組合青壮年部米崎支部	構成員数 (うち参加者数)	10名 (10名)
総事業費	285,120円	うち基金助成額	285,120円
事業の目的	マガキ種苗の安定確保に資するため、広田湾内でのマガキ天然採苗の可能性を探ることを目的とする。		
材料及び方法等	<p>【材料】 採苗器 (ホタテ殻)、プランクトンネット</p> <p>【方法】 広田湾内において、7月から9月にかけて採苗器を垂下し、マガキの付着稚貝数を計数。また、同時期にプランクトンネットを用いてカキの浮遊幼生 (ラーバ) を採取し計数。</p> <p>【場所】 米崎・小友地区 (付着調査)、広田地区 (付着調査、ラーバ調査)</p> <p>【参加者】 広田湾漁協青壮年部米崎支部、漁協、大船渡水産振興センター水産技術センター</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>1 米崎・小友地区</p> <p>7/31、8/10、8/17 に2箇所 (沼田岸壁、脇ノ沢岸壁) に採苗器をそれぞれ垂下したところ、殻1枚あたり20~30個の稚貝を確認。</p> <p>また、8/1、8/19 に1箇所 (両替岸壁) に採苗器を垂下したところ、殻1枚あたり数個から15個程度の稚貝を確認。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 調査地点</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 採苗器垂下状況</p> </div> </div>		

2 広田地区

(1) 付着調査

7/28、8/5、8/19、9/2、9/17 に6箇所（大陽岸壁、越田岸壁、後浜岸壁、アワビセンター岸壁、養殖施設（2箇所））にそれぞれ垂下したところ、8月から9月に付着のピークがみられ、最大で1枚あたり平均734個の付着を確認。



図2 調査地点

写真2 採苗器

活動内容
(結果及び
考察)

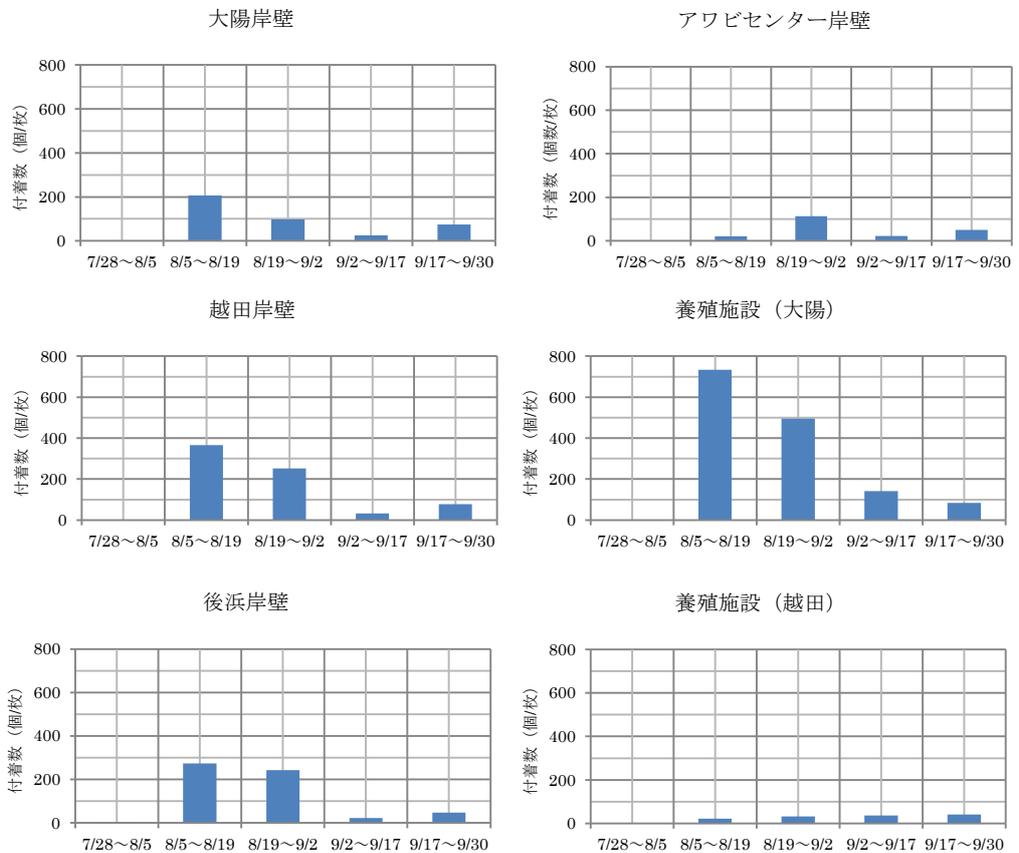


図3 各調査地点の稚貝付着数

(2) ラーバ調査

7/7、7/23、8/6、8/24、9/3、9/17に3箇所（越田、大陽、種場）でそれぞれ採取したところ、8月にピークがみられ、最大で35個/1000lのラーバ数を確認。



図4 調査地点

写真3 ラーバ採取

活動内容
(結果及び
考察)

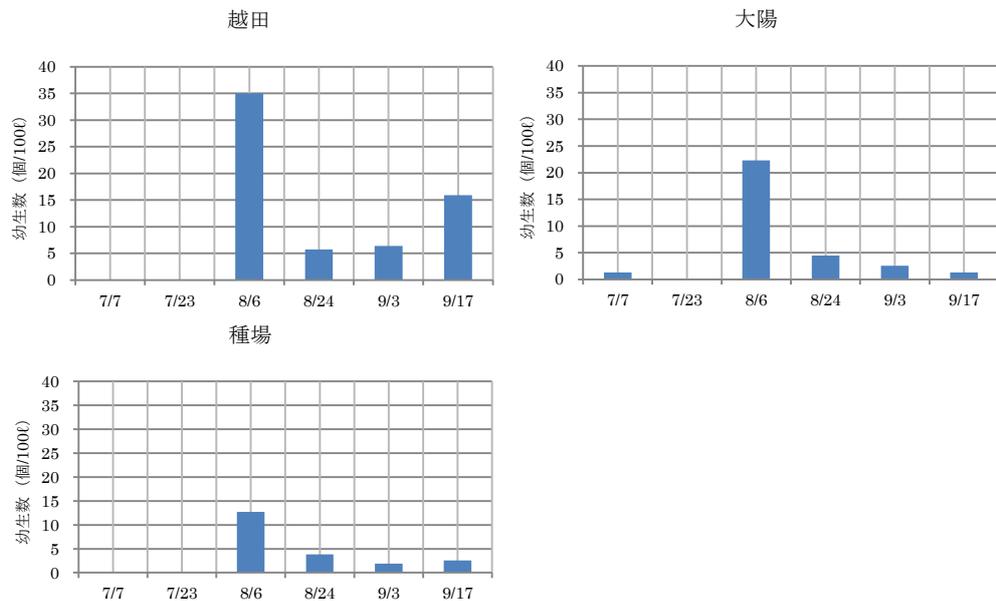


図5 各調査地点のラーバ数

本調査は昨年度から調査を行ってきたところであり、昨年度はマガキ稚貝の付着がほとんどみられなかったが、今年度は多数の付着が確認できた。

また、今年度からラーバ調査を新たに実施したところであるが、浮遊幼生の発生のピークの時期も併せて確認できた。

採苗の場所と時期について、再現性を確認するため、来年度も引き続き同様の調査を実施する予定である。

課 題 名	エゾイシカゲガイ採苗技術開発試験		
実施主体	釜石湾漁業協同組合青年部	構成員数 (うち参加者数)	24名 (12名)
総事業費	286,244円	うち基金助成額	229,000円
事業の目的	<p>釜石湾漁業協同組合青年部は、市場価格の低迷等により漁業者の経営状況が不安定な状況にあることから、安定した単価が見込まれるエゾイシカゲガイ養殖試験を震災前から取り組んでいる。</p> <p>当青年部は、平成26年3月から採苗試験を再開し、平成26年度は湾内の採苗適地を概ね把握したほか、垂下水深は5mが適当であること、また、蓋網の目合いは採苗数に大きく影響しないことを把握した。</p> <p>本年度は、平成26年採苗群(H26採苗群)の漁場別の成育状況を把握するとともに、平成27年3月に設置した新たな採苗器への加入状況(H27採苗群)について調べることを目的とした。</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>【普及の内容・特徴】 <試験区Ⅰ> H26採苗群の漁場別の成育状況を把握するため、2漁場(平田漁場・白浜浦漁場)に、稚貝を収容したタライを垂下し、分散時に採苗器あたりの個体数、重量、殻長を計測した。</p> <p>当試験区の回収個体数、平均殻長及び新規加入状況を表2に示した。H26採苗群(採苗数1,354個、殻長14.6mm)は、1～3次分散を経て、4次分散時(平成28年3月)に1,140個確保した。サイズは平均殻長51.6mm、平均重量38.0g/個であった。垂下漁場別の平均殻長は、平田漁場が51.1mm、白浜浦漁場が52.3mmであり、成長に顕著な違いは認められなかった(図1)。</p> <p>3次分散時(平成27年10月)にH26採苗群に混じって、新規加入個体(H27採苗群)を確認した。個体数は25個(1個/タライ)と少なく、サイズは平均殻長11mmとH26採苗群に比べて小さい傾向が認められた。</p> <p><試験区Ⅱ> 平成27年3月に新たに2漁場に投入した採苗器の加入状況を把握するため、同年10月に採苗器毎の個体数、重量、殻長を調べた。</p> <p>当試験区の回収個体数、平均殻長及び新規加入状況を表2に示した。H27採苗群の採苗数は116個(2.9個/タライ)であり、H26採苗群の104個/タライを大きく下回った。また、サイズは平均殻長11.8mmであり、H26採苗群(14.6mm)より小さい傾向が認められた。採苗状況を漁場別にみると、平田漁場が4.1個/タライ、白浜浦漁場が2.6個/タライであり、垂下場所による違いが見られたほか、垂下水深別にみると水深5mが3.4個/タライ、水深10mが2.5個/タライと水深5mの方が多く、平成26年度の採苗試験を裏付ける結果となった。</p> <p>【成果・活用】 採苗状況は、採苗器の垂下場所及び垂下水深に大きく影響すること、また、年により大きく変動することが分かった。また、その後の殻長の推移は2漁場で顕著な違いは認められなかったことから、垂下場所は成長に大きく影響しないことが示唆された。</p> <p>今後は、安定的に種苗を確保する技術のほか、採算性や販売方法等を確立し、漁業者に普及していく。</p>		

表1 作業スケジュールと分散密度

試験区	分散作業	H26.3	H26.9	H27.3	H27.10	H28.3
I	内容	採苗器投入	1次分散	2次分散	3次分散	4次分散
	分散密度(個/鈎イ)		70	70	40	40
II	内容	-	-	採苗器投入	1次分散	2次分散
	分散密度(個/鈎イ)	-	-		100	50

表2 回収個体数、平均殻長及び新規加入状況

試験区	採苗群	項目	H26.3	H26.9	H27.3	H27.10	H28.3
I	H26採苗群	個体数(個)	-	1354	1408	1132	1140
		重量(g)	-	1306	13399	31363.0	43373
		平均殻長(mm)	-	14.6	34.1	46.3	51.6
		新規加入状況(個/鈎イ)	-	104.0	-	-	-
	H27採苗群	個体数(個)	-	-	-	25	-
		重量(g)	-	-	-	15.0	-
		平均殻長(mm)	-	-	-	11.0	-
		新規加入状況(個/鈎イ)	-	-	-	1.0	-
II	H27採苗群	個体数(個)	-	-	-	116	97
		重量(g)	-	-	-	69.0	592
		平均殻長(mm)	-	-	-	11.8	27.2
		新規加入状況(個/鈎イ)	-	-	-	2.9	-

活動内容
(結果及び
考察)

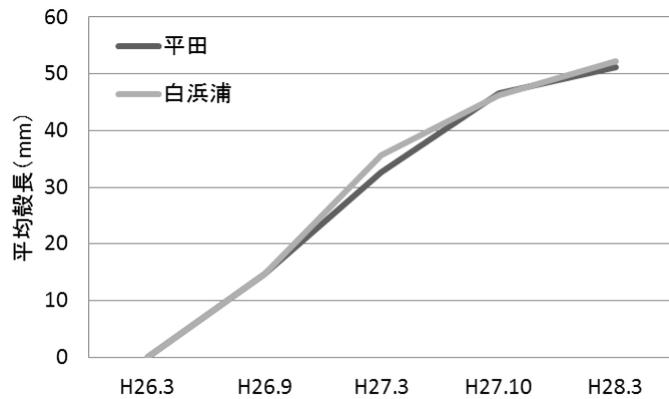


図1 H26採苗群の成長状況



図2 H26 採苗群(平成 28 年 3 月)

課 題 名	未利用資源を利用した加工品・料理の開発		
実施主体	釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部 魚食普及研究グループ	構成員数 (うち参加者数)	93名 (15名)
総事業費	368,190円	うち基金助成額	300,000円
事業の目的	<p>地元で取れる海産物・養殖生産物を利用して加工品等を作り将来、規格外品等の活用と加工品の販売ができる体制を検討する。また、震災後、停滞していた魚食普及活動を行い女性部活動の拡大に取り組む。</p>		
材料及び方法	<p>釜石湾漁協白浜浦支所で養殖または生産されるワカメ、ホタテガイ規格外品、ムラサキイガイ等の海藻・貝類や漁協自営定置、カゴ漁業等で漁獲されたサバ、イナダ、ドンコ等の規格外・低価格品の魚介類を使用して次の項目を検討、実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 加工品の試作 月1回程度のペースで、主に養殖から出る規格外品または未利用の介藻類等を利用して加工品の試作、試食による評価を調査し、規格外品等の利用拡大を検討する。 魚食普及活動 女性部未加入の若い人や高齢者等に調理方法伝授や加工品の試食を通じて魚食普及と地域住民の交流を図る。 イベント等での加工品提供 市内で開催されるイベント等で、試作加工品を提供し、漁業関係者以外の一般の評価を調査し、加工品の改良を行い、販売・商品化の検討を行う。 		
活動内容 (結果及び考察)	<p>平成27年に釜石湾漁協白浜浦女性部内の組織として「魚食普及研究グループ(以下、研究G)」を立ち上げた。</p> <p>研究Gの設立目的は、白浜浦地域の養殖漁業、採介藻漁業で採れた貝藻類と漁協自営定置、カゴ等の漁船漁業で漁獲された魚介類のうち、主に規格外品、未利用品、市場で低価格扱いの魚類を有効利用し、将来、女性部活動として加工品等の販売ができる体制・基盤づくりとした。併せて、地域の高齢者や女性部未加入者を対象に、活動を通して調理方法の伝授や試食による魚食普及・地域活性化と、市内外のイベント等を通じた魚食普及も目的とした。</p> <p>平成27年5月から活動を開始し、平成28年3月まで料理、加工品の試作、魚食普及活動、イベント等へ出店を行った。</p> <p>【実施状況】</p> <p>◆加工品の試作</p> <ul style="list-style-type: none"> 白浜浦地域で10回の料理実習を開催し、規格外品または未利用品の介藻類等利用を主とした料理・加工品を試作した。 料理実習で使用した素材、料理は別表のとおり。素材は、ワカメの消費拡大、 		

<p>活動内容 (結果及び 考察)</p>	<p>規格外サイズのホタテガイ（ヒモ部分の利用を含む）、養殖施設に付着する未利用品のシュウリ、アカザラガイ、定置網で漁獲され低価格で取引されるイナダ（ショッコ）、サバ等の有効利用や利用拡大を進めることを目指し使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理した料理・加工品は地域住民等に試食していただき、試食後アンケート調査も実施し評価を確認した。 <p>◆魚食普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 白浜浦地域の女性部未加入者や高齢者等を対象として調理方法伝授や加工品等の試食を通じて魚食普及と地域住民の交流を図った。 特に白浜浦地域も住民の高齢化、漁業の廃業が進み、高齢者宅等は地域水産物を食す機会も減少している。このことから、女性部の魚食普及活動による料理を提供し、住民交流が図られることによる地域活性化の一助とした。 料理の調理および試食による交流では、白浜浦地域の震災後のコミュニティの現状を調査している岩手大学人文社会学部・杭田ゼミ（杭田准教授、ゼミ生）が定期的に参加し、魚食普及を通じた交流を図った。 <p>◆イベント等での加工品提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 10 月に開催されたいわての浜料理選手権は、研究 G の活動として参加した。出品料理は、ホタテガイの貝柱、ヒモを利用した「ホタテフランク」とした。 いわての浜料理選手権に出品した「ホタテつくね（改名）」をブラッシュアップして、釜石市主催の冬の味覚フェスティバルに出店し、試験販売とアンケートを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ☆開催日 平成 28 年 1 月 16 日～1 月 17 日 ☆出品料理 「ホタテつくね」・・・200 本試験販売 「ライスコロケ（ホタテ入り）」・・・177 個試験販売 いわて銀河プラザ（東京都）で開催された釜石市水産物 PR イベント（釜石市事業）へ岩手大学釜石サテライト指導のもと、試作したワカメの加工品の対面販売を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ☆開催日 平成 28 年 2 月 29 日～3 月 1 日 ☆出品加工品 「わかめの芯ちゃん（中芯の佃煮）」・・・227 個販売 ☆本取組では、製造、パッケージ、対面販売までの一連の流れを実施。 <p>【課題と今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工品開発における規格外品、未利用品を利用した原材料の確保調達 <ul style="list-style-type: none"> → 原材料確保に向けた取り組みは、女性部のみで解決できる課題ではないことから、料理・加工品の開発に引き続き取り組みながら、漁協と連携して検討していく。 地域外における魚食普及活動の取り組み拡大 <ul style="list-style-type: none"> → 今年度の活動から地域内のみでの魚食普及活動は、メンバーの固定化、
-------------------------------	---

活動内容
(結果及び
考察)

参加者の減少等が感じられた。また、魚食普及という観点から地域外での取り組みが必要と感じられた。

- このことから新たな取り組みとして、内陸部の農協女性部等を対象とした料理を通じた交流・連携を検討し、魚食普及活動を拡大させる。
- ・加工品製造に係る場所の確保および各種許可取得
 - 釜石冬の味覚フェスティバルには臨時営業許可を取得し出店。次年度以降も引き続き継続する。
 - いわて銀河プラザに出品したワカメ加工品製造は、釜石女性部施設（許可取得済み）を借用して実施した。
 - 白浜浦地域内の施設は、現状では加工品製造に係る食品営業許可の取得は難しいことから、引き続きイベント等での臨時営業許可による出店、試験販売を継続しながら、漁協、県と連携し情報収集を行う。

【今年度成果】

事業開始当初は、加工品の販売までを検討することとしていたが、活動を通して研究 G 内に加工品等の製造・販売への意欲が高まり、また、岩手大学を始めとした関係機関の協力もあり、イベントでの試験販売、加工品製造から販売までの一連の流れに取り組むことができた。

魚食普及活動も今年度の取り組みを踏まえ、内陸部や農業などの異業種との連携交流に取り組む意欲が高まっている。

【平成 27 年度活動記録】

活動日	参加人数	活動内容
5/17	27	第 2 回料理実習
6/21	27	第 3 回料理実習(岩手大学 4 名参加)
7/19	12	第 4 回料理実習(岩手大学等 4 名参加)
8/20	4	打ち合わせ(第 5 回料理実習)
9/20	14	第 5 回料理実習(岩手大学 4 名参加)
10/4	6	第 6 回料理実習(いわての浜料理選手権打ち合わせ及び試作)
10/25	11	第 7 回料理実習(いわての浜料理選手権打ち合わせ及び試作)
10/29	7	いわての浜料理選手権出場(優秀賞)
11/22	11	第 8 回料理実習(岩手大学 3 名参加)
12/10	5	研究グループ等活動事業打ち合わせ
12/13	4	第 9 回料理実習(釜石冬の味覚フェスティバル打ち合わせ及び試作)
H28/1/11	11	第 10 回料理実習(釜石冬の味覚フェスティバル打ち合わせ及び試作)
1/14	7	釜石冬の味覚フェスティバル打ち合わせ及び出店準備
1/16	10	釜石冬の味覚フェスティバル出店
1/17	8	釜石冬の味覚フェスティバル出店
1/18	3	釜石冬の味覚フェスティバル活動事後処理
1/23	3	銀河プラザ販売イベントの打ち合わせ(販売イベント:釜石市事業)
1/27	1	銀河プラザ販売イベントの打ち合わせ
2/2	1	銀河プラザ販売イベントの出品に関する打ち合わせ
2/5	8	第 11 回料理実習(銀河プラザ販売イベント打ち合わせ及び試作)
2/6	8	第 11 回料理実習(銀河プラザ販売イベント打ち合わせ及び試作)
2/11	3	銀河プラザ販売イベントの準備(パッケージシール作成)
2/28	3	銀河プラザ販売イベント(移動・準備)
2/29	3	銀河プラザ販売イベント(実施)
3/1	3	銀河プラザ販売イベント(実施・移動)
延べ参加人数	200	(5/17 以降)

※第 1 回料理実習は平成 27 年 4 月 12 日に実施(事業対象外)

【料理実習の素材および料理】

※第1回料理実習は平成27年4月12日に実施（事業対象外）

活動日	項目	素材	料理
H27/4/12	第1回料理実習	ワカメ	白和え/スープ/ワカメと筍のお寿司
5/17	第2回料理実習	ワカメ アカザラガイ ホヤ	中芯入りパウンドケーキ 炊き込みご飯 ホヤのキムチ和え
6/21	第3回料理実習	ホタテガイ ひじき	クリームパスタ/つみれスープ ひじき入りサラダ
7/19	第4回料理実習	ホタテガイ アカザラガイ	餃子/マリネ/スープ アカザラご飯
9/20	第5回料理実習	イナダ ホタテガイ ドンコ、サバ シュウリ	魚のピーマン詰め ロールキャベツ すり身汁 シュウリご飯
10/4	第6回料理実習	ホタテガイ	クリームコロッケ/ホタテフランク
10/25	第7回料理実習	ホタテガイ シュウリ アカザラガイ	ホタテフランク ピラフ ボールスープ
11/22	第8回料理実習	イナダ サバ サケ	さつま揚げ風揚げ物 カレー焼き 粕汁
12/13	第9回料理実習	ホタテガイ ホタテ、アカザラ、イカ	ホタテフランク ライスコロッケ
H28/1/11	第10回料理実習	ホタテガイ ホタテ、アカザラ、イカ	つくね ライスコロッケ
2/5	第11回料理実習	ワカメ	中芯の佃煮

活動内容
(結果及び
考察)

【料理実習アンケート結果】

平成27年4月12日 第1回料理実習アンケート結果

ワカメと筍のお寿司	筍柔らかくておいしかった/筍にも味が付いていて美味しかった さっぱりして美味しい/御飯が少し柔らかい/御飯はもう少し固めがいい 油揚げの味が少し薄い/筍を細かく切った方がいい
ワカメの白和え	味噌とマヨネーズを混ぜるのにビックリ/あっさりしていて良かった この材料と作り方なら試したい/簡単に作れるので良かった マヨネーズと白ゴマがクルミの代用できて良かった 餡が少し柔らかい/砂糖の味が足りない/クルミ使えばなお良かった
ワカメのスープ	軽い味で良かった/美味しく胡椒が良かった/少し胡椒が効きすぎていた ネギは丸輪切りの方がいいかな 調味料は万能だが、しっかりした出汁を取るのも良いかも

※ 参考資料：第1回料理実習は事業対象外として実施

平成27年9月20日 第5回料理実習アンケート結果

魚のピーマン詰め	肉詰めと思っていたが、工夫次第で魚料理に変身 塩分控えめでヘルシー/少し薄味、マヨネーズ足したらいいか
ホタテ入りロールキャベツ	美味しかった/塩分控えめでとてもヘルシー 肉料理と思っていたが、工夫次第で魚料理に変身 キャベツが固かった/白菜でも食べ比べてみたらいい
すり身汁(つみれ汁)	材料が直前まで分からなかったが、何とかまとめることができた つみれ汁美味しかった/つみれの出汁は初めての美味しさ 未利用魚をすり身にすると活用できることがわかった 元の魚の風味がするように工夫すると美味しくなると思う
シュウリの御飯	最も良かったのはシュウリ御飯/御飯は少々固め シュウリ貝等の出汁を入れて、炊き込みご飯の素にしても良いかも

【試験販売アンケート結果 (1/16,17 釜石冬の味覚フェスティバル)】

		【 海の幸ライスコロッケ 】	【 ホタテのつみれ焼き 】
感想	美味しい	30	34
	普通	0	0
	美味しくない	0	1
食感	良い	29	30
	普通	1	4
	悪い	0	1
価格	安い	13	9
	高い	1	4
	普通	11	22
その他	もう一度食べたい	28	29
	どちらとも言えない	2	6
	食べたくない	0	0

【魚食普及活動】

日時：平成 27 年 10 月 25 日

内容：加工品の試作および魚食普及活動（岩手大学・杭田准教授外学生 2 名も参加）

活動内容
(結果及び
考察)



活動内容
(結果及び
考察)

【いわての浜料理選手権】

日時：平成 27 年 10 月 29 日

内容：加工品の試作品を“浜料理選手権”に出品



【かまいし冬の味覚フェスティバル】

日時：平成 28 年 1 月 16 日

内容：加工品の試作品を“冬の味覚フェスティバル”に出品

出品料理 ホタテ入りライスコロケ、ホタテのつくね



【銀河プラザ PR 販売イベント（岩手大学主催）】

日時：平成 28 年 3 月 1 日

内容：加工試作品を試食および試験販売

出品料理 ワカメ茎の佃煮



活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	マガキシングルシードの養殖方法検討																																		
実施主体	新おおつち漁業協同組合青年部	構成員数 (うち参加者数)	17名 (8名)																																
総事業費	189,877円	うち基金助成額	189,877円																																
事業の目的	本県沿岸では養殖事例の少ないマガキシングルシードについて、大槌地先で1年物(未産卵)ガキの養殖方法および出荷の可能性を検討する。																																		
材料及び方法等	<p>1 材料 岩手県水産技術センター(以下、水技セ)が人工採苗により生産し、県内の要望漁協に無償提供したマガキシングルシード種苗(平均殻高6.83mm、平均体重0.12g)を使用した。</p> <p>2 方法 (1) 付着防除剤の使用 ムラサキイガイ等の付着生物の付着防除に効果があると言われているシリコン系付着防除剤の効果を検討するため、6月22日にホタテネット(1分、2分、4分)へ、シリコン系付着防除剤を塗布し、本試験のカキ養成に使用した。塗布の方法は、コンテナに付着防除剤を入れ、ホタテネットを浸漬し取り上げ、数日間、十分に乾燥させた。</p> <p>(2) 試験海域 大槌湾地先(一区第208号組合前)</p> <p>(3) 仮養成の開始(本事業開始前の準備) 4月16日に水技セが用意したホタテネットにマガキシングルシード種苗を1カゴ300個入れて、1連あたりカゴを4~5段として試験海域に垂下した。仮養成は7月24日まで実施し、1段目(最上段)と3段目を計測した。</p> <p>(4) カゴ目合、カキ収容密度、分散時期の検討 7月24日に、仮養成中のマガキシングルシード種苗を回収し、ホタテネット1分目合の1カゴ当りの収容密度を50個/カゴ、100個/カゴと、2分目合の100個/カゴに調整し、カゴ4段を1連として養殖試験を行った。開始後、以下の設定で、3~4ヵ月間隔で計測とカゴ換え・分散作業を行った。</p> <table border="1" data-bbox="422 1444 1396 1736"> <thead> <tr> <th colspan="2">試験区</th> <th>7月24日 仮養成→分散</th> <th>11月4日 計測のみ</th> <th>平成28年2月22日 分散(カゴ換え)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">100個/カゴ</td> <td>収容密度</td> <td>100個</td> <td>100個</td> <td>30個</td> </tr> <tr> <td>カゴ目合</td> <td>1分</td> <td>1分</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">100個/カゴ</td> <td>収容密度</td> <td>100個</td> <td>100個</td> <td>30個</td> </tr> <tr> <td>カゴ目合</td> <td>2分</td> <td>2分</td> <td>4分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">50個/カゴ</td> <td>収容密度</td> <td>50個</td> <td>50個</td> <td>15個</td> </tr> <tr> <td>カゴ目合</td> <td>1分</td> <td>1分</td> <td>2分</td> </tr> </tbody> </table> <p>本試験では収容密度の検討と本養成におけるカゴ換え・分散の時期を検討した。</p> <p>(5) 1年物(未産卵)ガキの評価 成育状況から1年物ガキとしての出荷時期を検討し、殻付きガキを扱う業者の評価を確認する計画であったが、種苗配布の時期が7月となり、1年物ガキとしての出荷は、平成28年5月以降となることから本試験の実施は見送った。</p>			試験区		7月24日 仮養成→分散	11月4日 計測のみ	平成28年2月22日 分散(カゴ換え)	100個/カゴ	収容密度	100個	100個	30個	カゴ目合	1分	1分	2分	100個/カゴ	収容密度	100個	100個	30個	カゴ目合	2分	2分	4分	50個/カゴ	収容密度	50個	50個	15個	カゴ目合	1分	1分	2分
	試験区		7月24日 仮養成→分散	11月4日 計測のみ	平成28年2月22日 分散(カゴ換え)																														
100個/カゴ	収容密度	100個	100個	30個																															
	カゴ目合	1分	1分	2分																															
100個/カゴ	収容密度	100個	100個	30個																															
	カゴ目合	2分	2分	4分																															
50個/カゴ	収容密度	50個	50個	15個																															
	カゴ目合	1分	1分	2分																															

活動内容
(結果及び
考察)

(1) 付着防除剤の使用

11月と2月のカキ計測時に、カゴに対する付着生物を確認したところ、11月は付着は確認されなかったが、カゴ内のカキにはムラサキガイ等の付着が確認された。2月はカゴに海藻等の付着が確認された(付着した海藻等の重量は欠測)。このことから、付着防除剤は、カゴに対して3ヵ月間は付着防除の効果は確認されたが、7ヵ月後にはその効果は薄れていることが確認された。

(2) 仮養成の開始(本活動事業開始前の準備)

4月に提供された種苗は、平均殻高6.83mm、平均個体重量が0.12gであったが、7月24日の計測(分散)時には、平均殻高が30.55mm、平均個体重量が3.77gに成長していた。

	4月	7月
殻高(mm)	6.83	30.55
殻長(mm)	5.25	26.26
個体重量(g)	0.12	3.77

(3) カゴ目合、カキ収容密度、分散時期の検討

【カゴ目合いの検討】

1カゴあたり100個入れの1分目合いのカゴと2分目合いのカゴの本養成を平成27年7月24日から開始した。平成28年2月22日には、平均殻高は1分目合いカゴ試験区が74.7mm、2分目合いカゴ試験区が76.0mmであった。また、平均個体重量は、1分目合い試験区が49.8g/個、2分目合い試験区が53.1g/個であった。これらの結果より、両試験区の値には大きな差は認められなかった。

これまでの知見により、カキの成長に伴い網の目に食い込むことが判っていたため、食い込みの可能性が低い1分と2分の目合いの試験区としたが、今回の結果では両試験区とも網目への食い込みは確認されなかった。このことから、殻高30mm程度で養殖を開始する場合には、カゴ内の海水交換がより良い2分目合いのカゴで養殖を開始することが最適であると考えられた。

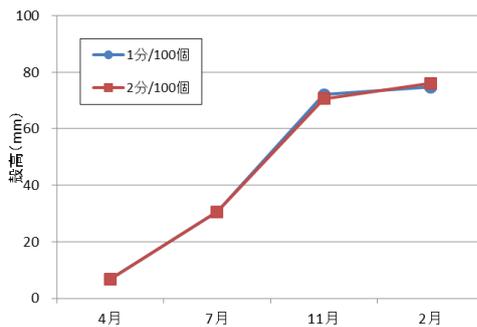


図1 カゴ目合い別の平均殻高の推移

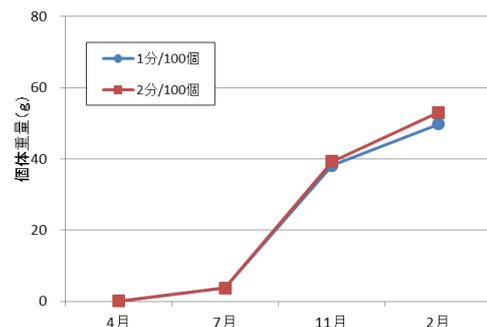


図2 カゴ目合い別の平均個体重量の推移

【カキ収容密度】

1分目合いのカゴに、1カゴあたり50個と100個を入れて本養成を平成27年7月24日から開始した。平成28年2月22日には、平均殻高は50個/カゴの試験区が88.3mm、100個/カゴの試験区が74.7mmであった。7月から11月までは両試験区とも著しく成長したが、11月以降は、50個/カゴ試験区は緩やかに成長し、100個/カゴ

試験区は停滞した。

また、平均個体重量は、50 個/カゴの試験区が 74.9 g/個、100 個/カゴの試験区が 49.8 g/個であった。平均殻高の推移と同様に、両試験区とも 11 月までは著しく成長し、11 月以降は、50 個/カゴ試験区は著しく成長し、100 個/カゴ試験区は緩やかに成長した。

これらの結果より、試験開始の 7 月から 11 月までは両試験区に大きな差は認められなかったが、11 月以降、殻高、個体重量とも 1 カゴの収容密度 50 個の試験区が高い値であったことから、殻高 30mm 程度で養殖を開始する場合には、1 カゴあたり 50 個の収容密度が最適であると考えられた。

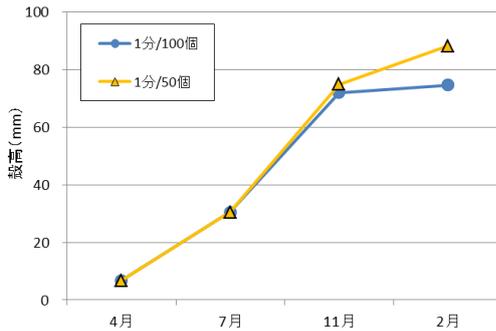


図3 収容密度別の平均殻高の推移

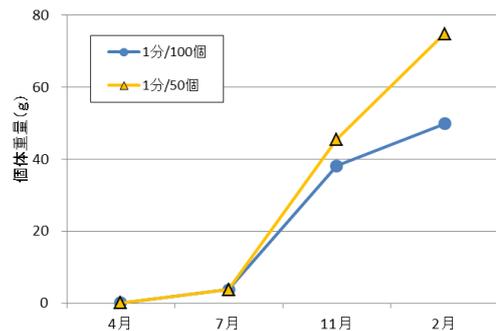


図4 収容密度別の平均個体重量の推移

活動内容
(結果及び
考察)

【分散時期の検討】

各試験区の 1 カゴあたりの付着物量およびカキ重量を 11 月計測時の付着物除去の有無で比較してみた。2 月分散時での付着物量は、除去なし群が 1,532~2,287 g、除去あり群が 205~322 g であった。このことから、夏季から秋季に付着した付着物は冬季にかけて順調に成長し、秋季から冬季は新たな付着が少なかったと考えられる。一方で、付着物除去の有無によるカキ重量に大きな差は見られなかった。

また、11 月及び 2 月の計測時点で、目視によりカキ及びムラサキイガイ等の付着生物の成長により、試験に使用したカゴ（ホタテネット）の収容密度の許容範囲を超えていると考えられた。

このことから、今回の試験結果では付着物によるカキの成長に大きな影響は少ないと考えられるが、カキの成長および付着物量がピークとなる秋季に分散カゴ換えを実施するのが最適であると考えられた。

【その他】

今回の分散カゴ換えでは、目合いの変更とともに収容密度を設定の 50% にしていたが、50 個/カゴ試験区でも 2 月時点で、目視により収容密度の許容範囲を超えていると思われたことから各試験区とも設定の 30% に変更した。

今後は、2 月に実施した分散カゴ換え後の成長を確認し、産卵前の春季から夏季の出荷可能性について継続する予定である。

活動内容
(結果及び
考察)

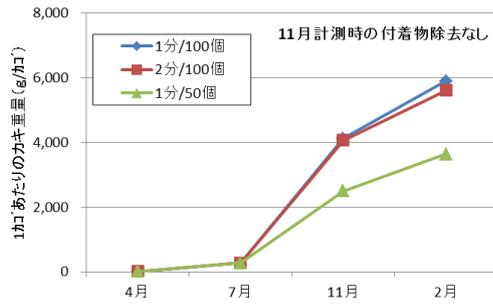


図5 試験区別の1かゝあたりカキ重量の推移
(11月計測時の付着物除去なし)

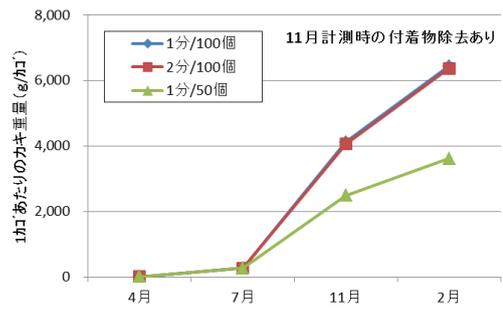


図6 試験区別の1かゝあたりのカキ重量の推移
(11月計測時の付着物除去あり)

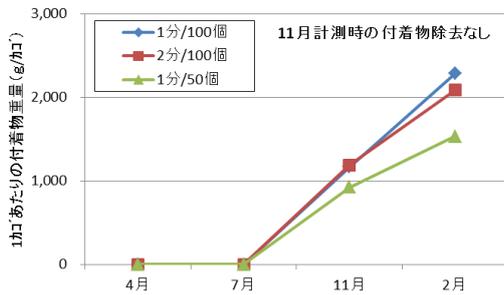


図7 試験区別の1かゝあたり付着物量の推移
(11月計測時の付着物除去なし)

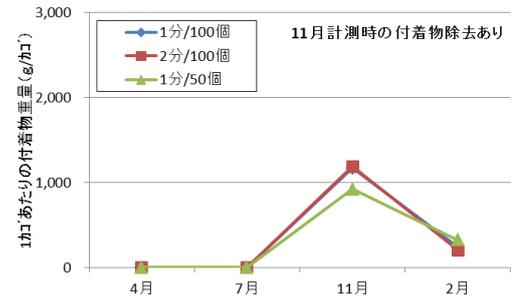


図6 試験区別の1かゝあたりの付着物量の推移
(11月計測時の付着物除去あり)

【仮養成】

日時 平成 27 年 4 月 16 日

備考 事業実施前。ネット等の資材は水産技術センター提供(ネットに種苗を入れて配布)

活動内容
(結果及び
考察)



【試験開始一本養成】

日時 平成 27 年 7 月 24 日

内容 仮養成種苗を測定し、試験設定による本養成を開始。

活動内容
(結果及び
考察)



【計測】

日時 平成 27 年 11 月 4 日

内容 成育状況確認のための計測



活動内容
(結果及び
考察)



【分散-カゴ換え】

日時 平成 28 年 2 月 22 日

内容 計測と分散を行い、カゴ換えにより再度、試験海域に垂下(本養成を継続中)



活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	養殖試験（マボヤ人工採苗技術導入試験）		
実施主体	大沢養殖研究会	構成員数 （うち参加者数）	10名 （6名）
総事業費	362,330円	うち基金助成額	350,000円
事業の目的	大沢地区でマボヤ人工採苗技術を確立して安全な種苗を確保する		
実施時期、 場所、参 加者等	<p>【時 期】平成27年11月26日（交付決定日） 平成27年12月25日（資材準備・発注） 平成28年1月4日（親ホヤ仕立て開始） 平成28年1月13日（人工採苗実施） 平成28年1月26日（採苗器の沖出し）</p> <p>【場 所】山田町大沢地区作業保管施設（中村敏彦作業所）</p> <p>【参加者】阿部豊、中村敏彦、箱石寛幸、福士清和、佐々木康浩、福士学</p>		
活動内容 （結果及び 考察）	<ul style="list-style-type: none"> ・1月4日に山田湾内の漁業者から種苗用親ホヤ120個を購入するとともに、会員の作業保管施設に1トン水槽や照明施設を設置し、順次、水産技術センターのマボヤ人工採苗マニュアルに準じた採苗器（1,000m）の準備や仕立て（産卵抑制）を行った。 ・1月13日に照明を使用した人為的に産卵誘発を行う方法で人工採苗を実施した。 ・十分な放卵放精を目視にて確認後、洗浄濾過した受精卵を採苗用水槽に投入した。水産技術センターのマニュアルでは、顕微鏡を用いて受精卵の計数作業を行い、適度な受精卵収容密度に調整することが推奨されているものの、本会では顕微鏡を保有していないことから、本会独自の手法としてタンク内の8割程度の海水を濾過し、受精卵を採苗用水槽へ投入した。 ・1月26日に採苗器（1,000m）の沖出しを行い、種苗の中間育成を開始した。 ・今後は、7月頃に中間育成中の採苗器へ付着状況を観察し、ユウレイホヤやムラサキイガイなどの付着生物の除去作業を行いながら、10月頃に本養成用ロープに巻き込みを行う予定である。 ・今回本会では、顕微鏡を使用しない独自の採苗方法で取り組んだことから、成功の鍵は十分に成熟した親ホヤの確保・仕立てが重要なものとの認識が深まった。 ・今後も継続して、マボヤの人工採苗に取り組んでいく計画である 		

【大沢養殖研究会ホヤ採苗器材】



親ホヤ



採苗タンク



活動内容
(結果及び
考察)



ヒーター



エアレーション



【大沢養殖研究会ホヤ採苗器材】



LED



配管



活動内容
(結果及び
考察)



ヒーター



ガーゼ、採苗器



シュロ縄



【大沢養殖研究会ホヤ採苗】



活動内容
(結果及び
考察)



課 題 名	宮古湾マガキ天然採苗試験																																																																																										
実施主体	宮古漁業協同組合青壮年部	構成員数 (うち参加者数)	37名 (11名)																																																																																								
総事業費	121,067円	うち基金助成額	121,067円																																																																																								
事業の目的	事業規模での天然採苗試験に取り組み、宮古湾でのマガキ地場採苗の実現可能性を把握するとともに、採苗技術の確立に必要な知見を得る。																																																																																										
実施時期、 場所、参 加者等	【実施時期】 平成27年7月21日～平成28年3月18日 【場 所】 岩手県宮古市宮古湾 【参加者】 部員11名																																																																																										
活動内容 (結果及び 考察)	<p>(1) 浮遊幼生調査</p> <p>マガキ浮遊幼生の発生時期である夏季に1週間間隔で宮古湾の2点(臼木、日立浜)において、北原式プランクトンネットNXX13を水深2.5mから垂直曳きをし、モノクローナル抗体による抗原抗体反応を利用した方法を用いてマガキ浮遊幼生を同定し、出現動向を調査した。</p> <p>日立浜</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>採取日</th> <th>8/12</th> <th>8/20</th> <th>8/31</th> <th>9/7</th> <th>9/16</th> <th>9/25</th> <th>10/7</th> <th>10/14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">マ ガ キ</td> <td>特大</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他二枚貝</td> <td>37</td> <td>4</td> <td>21</td> <td>40</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>臼木</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>採取日</th> <th>9/14</th> <th>9/24</th> <th>9/29</th> <th>10/5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">マ ガ キ</td> <td>特大</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他二枚貝</td> <td>200</td> <td>453</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>浮遊幼生の出現状況は、総じて数個程度と少なく推移した。</p> <p>(2) 採苗試験</p> <p>例年調査を実施している日立浜には8月から10月までの間に1週間間隔で計8回、内湾カキ養殖漁場内には5ヶ所に9月中旬を初回として1週間間隔で計4回、1ヶ所当たり1連の採苗器を設置し、マガキ稚貝の付着状況を調査した。</p> <p>測定方法：原盤1連から6枚のホタテガイ貝殻を抽出し、マガキ付着稚貝を計数</p>			採取日	8/12	8/20	8/31	9/7	9/16	9/25	10/7	10/14	マ ガ キ	特大	0	0	0	1	0	0	1	大	1	0	3	0	0	0	1	中	1	0	0	1	0	0	2	小	0	0	0	0	0	0	0	計	2	0	3	2	0	0	4	その他二枚貝	37	4	21	40	5	9	3	採取日	9/14	9/24	9/29	10/5	マ ガ キ	特大	2	1	1	大	0	0	0	中	2	3	0	小	0	0	0	計	4	4	1	その他二枚貝	200	453	55
採取日	8/12	8/20	8/31	9/7	9/16	9/25	10/7	10/14																																																																																			
マ ガ キ	特大	0	0	0	1	0	0	1																																																																																			
	大	1	0	3	0	0	0	1																																																																																			
	中	1	0	0	1	0	0	2																																																																																			
	小	0	0	0	0	0	0	0																																																																																			
	計	2	0	3	2	0	0	4																																																																																			
その他二枚貝	37	4	21	40	5	9	3																																																																																				
採取日	9/14	9/24	9/29	10/5																																																																																							
マ ガ キ	特大	2	1	1																																																																																							
	大	0	0	0																																																																																							
	中	2	3	0																																																																																							
	小	0	0	0																																																																																							
	計	4	4	1																																																																																							
その他二枚貝	200	453	55																																																																																								

日立浜

垂下日	8/12	8/20	8/31	9/7	9/16	9/25	10/7	10/14
回収日	8/20	8/31	9/7	9/16	9/25	10/7	脱落	10/28
平均付着数	1.2	0.8	1.5	1.4	37.6	4.9	—	0.8

内湾カキ養殖漁場

調査点	設置回数	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	平均個数	備考
A	1回目	3	3	4	3	4	3	3.3	
	2回目	7	7	6	6	4	9	6.5	
	3回目	0	0	0	5	2	1	1.3	
	4回目	1	1	0	3	3	1	1.5	
B	1回目							—	採苗器 流失
	2回目							—	採苗器 流失
	3回目							—	採苗器 流失
	4回目	1	0	0	脱落	脱落	脱落	0.3	
C	1回目	3	0	3	4	4	7	3.5	
	2回目	1	3	2	2	4	5	2.8	
	3回目	1	1	6	0	3	1	2.0	
	4回目	2	0	0	0	0	1	0.5	
D	1回目	7	4	4	3	7	2	4.5	
	2回目							—	採苗器 流失
	3回目							—	採苗器 流失
	4回目							—	採苗器 流失
E	1回目	1	3	3	0	0	2	1.5	
	2回目	1	3	4	4	5	2	3.2	
	3回目	3	2	3	2	2	0	2.0	
	4回目	1	4	2	1	1	0	1.5	

活動内容
(結果及び
考察)

内湾カキ養殖漁場へ垂下した採苗器への稚貝付着数は、10個未満となり、総じて少なかった。



課 題 名	マガキシングルシード養殖試験		
実施主体	野田漁友会	構成員数 (うち参加者数)	6名 (6名)
総事業費	275,544円	うち基金助成額	275,544円
事業の目的	カキシングルシードの養殖方法の検討		
実施時期、及び方法等	<p>【温等駆除試験】(9月～10月) 効果的な雑物除去方法を検討するため、ワカメボイル釜を用いた温等駆除を試みた。</p> <p>【身入り調査】(4月～3月) 出荷時期を検討するため、毎月1回身入り調査を実施した。</p> <p>【生食用出荷の検討】(4月～3月) 生食用出荷の可能性を検討するため、定期的なノロウイルス検査を実施した。</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>【温等駆除試験】 ムラサキイガイ等の付着物の駆除方法として、ワカメボイル釜を使った温湯駆除が効果的であることを確認した。処理温度、時間は70℃、10秒が効果的であった。</p> <p>【身入り調査】 試験期間中の身入りは12.4%から23.3%の範囲内にあり、最も身入りが良かったのは6月の23.8%であった。身入りの推移から、野田湾におけるカキの出荷時期は4月～8月が適当と考えられた。</p> <p>【生食用出荷の検討】 調査期間中、一度もノロウイルスは検出されず、生食用出荷の安全性を確認することができた。</p> <p>【野田漁友会 かき付着物温湯駆除試験 H27.9.27】</p>		
	 		



活動内容
(結果及び
考察)

【野田カキシングルシード平均歩留りの推移】

サンプル	H26									H27		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	414	4/18	6/9	7/3	7/30	9/2	10/3	11/5	1125	1/8	2/16	3/6
H24.2月 群	18.5%		19.4%									
H24.10月 群上		17.4%	19.2%									
H24.10月 群下		18.5%										
Mサイズ				25.3%	19.9%	17.2%	15.1%	14.9%	13.7%	15.0%	12.3%	19.1%
平均	18.5%	18.0%	19.3%	25.3%	19.9%	17.2%	15.1%	14.9%	13.7%	15.0%	12.3%	19.1%

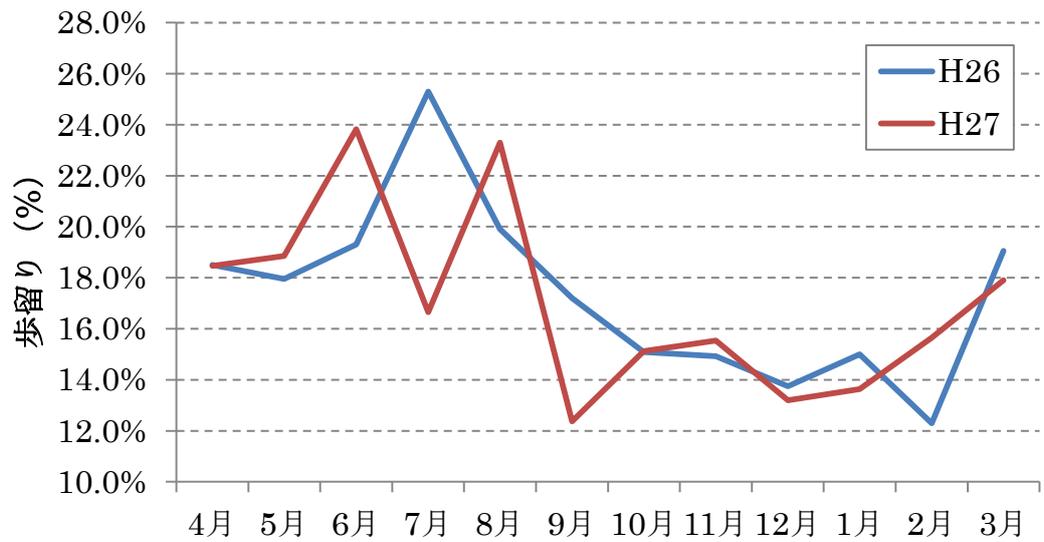
サンプル	H27										H28		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	4/6	4/20	5/14	6/23	7/23	8/17	9/30	10/31	11/26	1/5	1/29	2/29	3/28
Lサイズ		17.2%	17.7%	19.1%	17.3%	17.7%	10.3%	14.3%	14.1%	12.3%	12.9%	16.5%	16.4%
Mサイズ	13.0%	14.0%											
1年物		24.2%	20.0%	28.6%	16.0%	28.9%	14.5%	16.0%	17.0%	14.1%	14.3%	14.8%	19.4%
平均	13.0%	18.5%	18.9%	23.8%	16.7%	23.3%	12.4%	15.1%	15.5%	13.2%	13.6%	15.7%	17.9%

* H27年度のLサイズ：H24.10月養殖開始

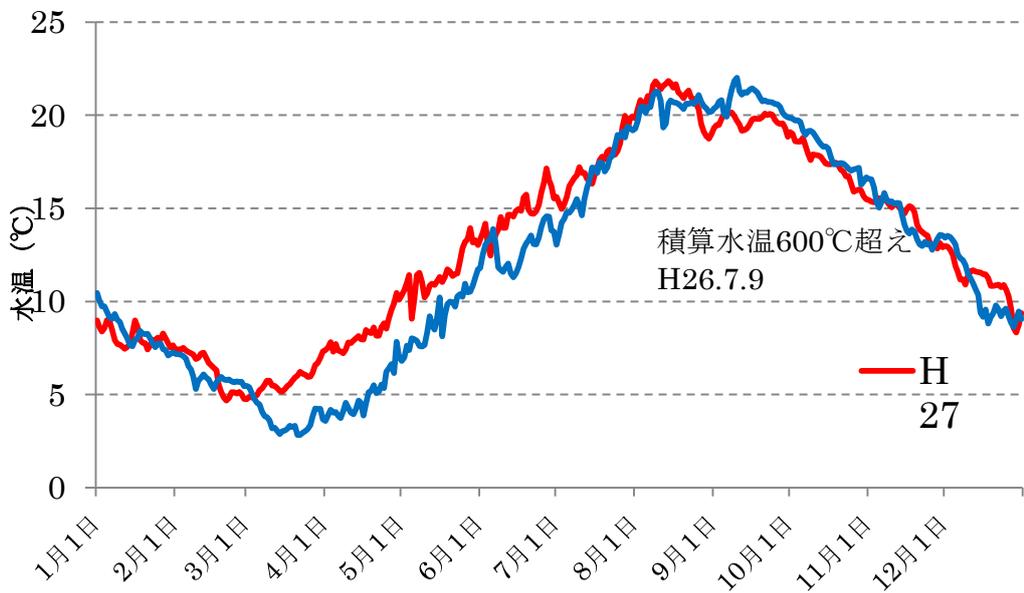
* H27年度のMサイズ：H25.4月養殖開始

* H27年度の1年物：H26.7月養殖開始

活動内容
(結果及び
考察)



かきの生殖巣は水温の積算量がある一定度合いに達することによって促進され、良好な産卵が期待される。この積算量を生殖巣の成熟温量指数 (T) と呼び、 $\sum (T_i - \theta)$ °C で表される。松島湾の場合は生殖細胞の分裂増殖が盛んになる 10°C を基準値 θ として、 $T = 600$ 度を目安としている。



* 宮城県：成熟温量指数

* 10°C以上で積算温度 600°Cで成熟の目安

課 題 名	青年等漁業者組織活動支援事業（研究グループ等活動事業）		
実 施 主 体	綾里漁業協同組合小石浜青年部	構成員数 (うち参加者数)	10名 (8名)
総事業費	210,120円	うち基金助成額	200,000円
事業の目的	C S Aと連携した養殖ホタテの販路拡大		
実施時期、 場所、参加 者等	<p>【実施日時】①平成27年8月8日 ②平成27年10月11日</p> <p>【場 所】①東京都千代田区 ②東京都新宿区</p> <p>【参 加 者】飲食店・小売店・量販店の各関係者及びC S Aコミュニティ関係者 ①168名 ②63名</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>東京都内において、C S Aコミュニティ関係者との連携を活用して飲食店・小売店・量販店の各関係者へ恋し浜ホタテのサンプルを提供するなどしてPR活動を行い、更なる販路拡大と供給の安定を図ることができた。</p> <p>また、生産者自身が参加し、震災からの復旧内容や現在の状況並びに水産物の品質の良さなどを具体的に説明することで、消費者と生産者との信頼関係を構築するばかりでなく、東日本大震災以降における三陸水産物の安心と安全を広く周知させ評価を高めることができた。</p> <p>① 全国食べる通信エキスポの様子</p>   <p>② 東北C S Aエキスポの様子</p>  		

3 (2) 青年等交流活動事業

ア 情報交換会の開催等

課 題 名	全国発表大会（第 21 回全国青年・女性漁業者交流大会）の参加		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	92 名 (2 名)
総 事 業 費	1 0 9 , 9 3 0 円	うち基金助成額	1 0 0 , 0 0 0 円
事業の目的	県漁業士会代表者の派遣		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日時】 平成 28 年 2 月 29 日 13 時～3 月 2 日 15 時</p> <p>【場所】 東京都</p> <p>【参加者】 吹切守指導漁業士、吹切秋則青年漁業士</p>		
活動内容 (結 果)	<p>全国発表大会（第 21 回全国青年・女性漁業者交流大会）に参加した。</p> <p>【基本行程】</p> <p>2 月 29 日：往路：洋野町発⇒東京着 東京宿泊</p> <p>3 月 1 日：東京滞在 東京宿泊</p> <p>3 月 2 日：復路：東京発⇒洋野町着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から 39、水産高校から 1 題の合計 40 題の発表があった。 ・岩手県からは馬場清志氏（種市南漁業協同組合、宿戸漁業研究会）が「ウニ直売会から浜に活気を - 直売会、朝市の取り組み」について、高屋敷和子女史（重茂漁協、女性部）が「重茂地区の環境保全と震災からの復興の取り組み - 浜の女（おんなたち）はこれからも海と生きてゆく」を発表した。 ・全国的には「販売活動・環境保全活動が活動の主流になっている」ことを実感した。 ・参加者数が少ない（総参加者数約 500 名程度）感がある。 		
			
	馬場清志氏発表	高屋敷和子女史発表	
			

課 題 名	宮古地区未婚漁業者等交流会（モノ作り体験、料理教室）		
実 施 主 体	宮古市漁業就業者育成協議会	構成員数 （うち参加者数）	5 団体 （11 名）
総 事 業 費	4 1 2 , 0 0 2 円	うち基金助成額	2 0 0 , 0 0 0 円
事業の目的	未婚漁業者の婚活の機会として交流会を実施し、未婚漁業者の結婚対策を行い、漁業経営体維持の一助とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日時】 平成 28 年 2 月 6 日（土）</p> <p>【場所】 岩手県宮古市</p> <p>【参加者】 宮古漁業協同組合・重茂漁業協同組合・田老町漁業協同組合の男性未婚漁業者 11 名、県内の未婚一般女性 7 名、漁協関係者、料理教室関係者（盛岡）、行政関係者</p>		
活動内容 （ 結 果 ）	<p>【活動要旨】</p> <p>「宮古地区未婚漁業者等交流会（モノ作り体験、料理教室）」</p> <p>宮古市漁業就業者育成協議会が事務局となり、宮古地区の未婚漁業者11名の配偶者対策として、盛岡近郊の一般未婚女性7名を招いて、平成28年2月6日（土）に開催しました。</p> <p>当協議会は、このような交流会を開催したことがないことから、企画段階から、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金理事・小野寺恵氏に助言と協力を依頼。上記のとおり開催実績となりました。</p> <p>11：00からのモノ作り体験では、水産加工会社・丸徳で、宮古港の主要水揚げ魚種であるタラを使って、男性と女性がペアとなり、ちくわ、さつま揚げづくりを行いました。</p> <p>14：30からの料理教室では、小野寺氏を講師に迎え、漁業者が持ち込んだ生産物（タラ、早採りワカメ等）を食材に、男女が協力してタラ汁を作ったほか、早採りワカメのしゃぶしゃぶで旬の味を楽しみました。</p> <p>交流会後は、宮古市内で懇親会が開催され、参加者の交流を深めることができ、漁村の活性化の一助となったと思います。今後、真剣交際に向け、引き続き交流を続けるペアもあるほか、参加者からは「楽しく交流することができたので、また参加したい」という声も聞かれました。</p>		
			
	モノ作り体験（ちくわ、さつま揚げ）		漁業者が生産物を持ち込んで料理教室

課 題 名	第 21 回全国青年・女性漁業者交流大会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会宮古支部	構成員数 (うち参加者数)	28 名 (3 名)
総 事 業 費	1 0 1, 4 0 0 円	うち基金助成額	5 0, 0 0 0 円
事業の目的	全国規模の交流大会に参加し、支部会員の資質向上と地域の活性化を図る。		
実施時期、場所、参加者等	【実施時期】 平成 28 年 3 月 1 日 13:00～3 月 2 日 15:00 【場 所】 ホテルグランドオーク半蔵門 (東京都千代田区) 【参 加 者】 田中仁指導漁業士、加賀修指導漁業士、平子昌彦青年漁業士		
活動内容 (結 果)	【基本行程】 3 月 1 日 : 宮古市 (ないし山田町) 発⇒東京着 13:00～17:00 大会参加 東京宿泊 3 月 2 日 : 8:40～15:00 大会参加 東京宿泊 3 月 3 日 : 東京発⇒宮古市 (ないし山田町) 着 <ul style="list-style-type: none"> ・全国から 39 題、水産高校から 1 題の合計 40 題の発表があった。 ・岩手県からは高屋敷和子氏 (重茂漁業協同組合女性部) が「重茂地区の環境保全と震災からの復興の取り組みー浜の女性 (おんなたち) はこれからも海と生きてゆくー」について、馬場清志氏 (種市南漁業協同組合宿戸漁業研究) が「ユニ直売会から浜に活気をー直売会、朝市の取り組みー」についてそれぞれ発表し、高屋敷和子氏は水産庁長官賞を、馬場清志氏は JF 全国女性連・JF 全国漁青連会長賞を受賞した。重茂漁協女性部の 40 年間と長期に亘る活動は極めて高い評価を得た。 ・近年、流通・消費拡大部門や地域活性化部門の発表が多い傾向にあったが、今年は発表が 5 部門に均一に分散していた。 		
	参加漁業士 (左: 加賀指導漁業士、右: 田中指導漁業士)		参加漁業士 (左: 加賀指導漁業士、右: 平子青年漁業士)

(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

課 題 名	大船渡地区新規漁業就業者能力向上支援研修会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	92名 (9名)
総 事 業 費	227,772円	うち基金助成額	100,000円
事業の目的	岩手県漁業士会大船渡支部内の新規漁業就業者の能力向上支援		
実施時期、 場所、参加 者等	<p>【日 時】平成28年1月28日(木) 研修会 15:15~17:15 交流会 17:30~19:30</p> <p>【場 所】大船渡市(オーシャンビュー・ホテル丸森)</p> <p>【参加者】38名(新規漁業就業者27名、漁業士9名、市職員2名)</p>		
活動内容 (結果)	<p>【研修内容】</p> <p>(1)「岩手県の漁業」 講師:大船渡水産振興センター遠藤主査</p> <p>(2)「漁師を目指す貴方に知ってもらいたい事」 講師:大船渡水産振興センター太田総括</p> <p>(3)「漁船登録と漁業許可について」 講師:大船渡水産振興センター佐藤技師</p> <p>(4)「知って得する?資金制度と税制」 講師:大船渡水産振興センター太田総括</p> <p>(5)「漁業とお金」 講師:大船渡水産振興センター高木主査</p> <p>(6)「営業許可等食品衛生に関する事」 講師:大船渡保健所伊藤技師</p> <p>(7)「やってみよう!副業」 講師:大船渡水産振興センター佐藤総括</p>		
			

課 題 名	岩手県漁業士会・研修会		
実施主体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	92名 (本人・委任状 合計：85名)
総事業費	226,506円	うち基金助成額	100,000円
事業の目的	漁業士の資質の向上		
実施時期、 場所、参加 者等	【日 時】 平成27年7月4日 【場 所】 メトロポリタン盛岡(盛岡市) 【参加者】 岩手県漁業士会会員、関係漁協職員、関係行政職員(合計35名)		
活動内容 (結果)	<p>① 各地区活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖漁業の経営状況(復興状況・補助事業活用状況)について ・ 協業体育成について ・ 新規着業者の育成について <p>② 支部活動報告</p> <p>③ 担い手育成ビジョンについて(施策紹介)</p> <p>④ 冷水接岸について(講演)</p> <p>【要旨は別紙添付】</p> <p>①総会(15:00~16:00)総合司会：橋場敏光(野田村漁協)</p> <p>1 開会：船本敬史(船渡市漁協)、2 会長挨拶：吹切守会長、3 来賓祝辞：佐久間修所長</p> <p>4 議長選任(鳥居晋氏(田老町漁協)が選任される)</p> <p>5 議事：添付資料の第一号議案~第三号議案(説明：石川首席)</p> <p>特に質問意見はなく、提案議案は承認された。新漁業士(安藤正樹・平子昌彦)自己紹介、退会者挨拶(千田勝治元指導漁業士)</p> <p>6 閉会：船本敬史(船渡市漁協)</p> <p>②話題提供・研修会(16:00~17:30)座長：吉水裕信(田老町漁協)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各支部活動報告…船本敬史(大船渡)、佐藤普及総括(釜石)、加賀修(宮古)、橋場敏光(久慈) ・ 講演：冷水の接岸について：児玉琢哉専門研究員(水技)…資料添付 <p>質問：①冷水接岸の解明は(津軽暖流との関係)、②予測可能態勢の際の生産者の対応は？</p> <p>回答：予測精度向上と予測通報体制構築に努力する。生産者の対応は水技全体で指導・指示体制を協議しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新担い手育成ビジョンについて：阿部孝弘主任主査(水産振興課)…資料添付 <p>質問：①このビジョンは営漁計画策定前に示すべきではなかったか。②さしあたり、営漁計画の確実な実行に努力すれば良いのでしょうか？</p> <p>回答：このビジョンは各地区の営漁計画の“担い手育成”に関する共通部位を抽出し、県全体での方向を示すもの、と位置付けている。また、ご指摘の通り“まずは営漁計画の確実な実行”が主眼である。</p>		



総会（全景）



新任者挨拶（安藤正樹・平子昌彦）



退任者挨拶（千田勝治）



講演（児玉琢哉：水産技術センター）

活動内容
（結果）

課 題 名	東日本女性漁業士交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	92名 (10名)
総事業費	293,077円	うち基金助成額	100,000円
事業の目的	他県漁業士との交流と漁業士の資質の向上		
実施時期、 場所、参加 者等	<p>【日 時】平成27年8月20日～21日</p> <p>【場 所】ホテル東日本盛岡（盛岡市）</p> <p>【参加者】岩手県漁業士会会員、青森県漁業士会会員、宮城県漁業士会会員、茨城県漁業士会会員、千葉県漁業士会会員、関係漁協職員、関係行政職員 合計38名</p>		
活動内容 (結果)	<p>【講演】</p> <p>演題：「震災時、震災復興時の漁村女性の役割について」</p> <p>講師：東谷幸子（新おおつち漁協 女性部長）</p> <p>グループ討議（各主要課題項目）</p> <p>① 復興状況・補助事業活用状況について</p> <p>② 活動報告（販売、魚食普及、女性部活動）について</p> <p>③ 新規着業者の育成について</p> <p>（ほか、交流会を併催する）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>東谷幸子女史講演</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>グループ討議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>記念写真</p> </div> </div>		

課 題 名	第 53 回県下漁協女性部郡別研修会		
実 施 主 体	岩手県漁協女性部連絡協議会	構成員数 (うち参加者数)	6,505 名 (約 580 名)
総 事 業 費	1 2 5, 4 9 6 円	うち基金助成額	1 0 0, 0 0 0 円
事業の目的	漁協女性部員の知識の向上と相互交流、活動意欲の向上を図ることを目的とする。		
実施時期、 場所、参加 者等	【日 時】 平成 28 年 1 月 19 日 (火) ~1 月 22 日 (金) 【場 所】 沿岸地区 4 会場 (詳細は別添、資料による) 【参加者】 県下漁協女性部員 約 580 名		
活動内容 (結 果)	<p>講演は、魚食普及の更なる活動促進をテーマとして、いわての浜料理選手権等の開催を踏まえて、女性部における加工商品の開発や 6 次産業化へ向けた実践活動の内容であり、講師から様々な事例や消費者動向を聴くことができ、今後の活動に大いに参考となった。</p> <p>また、郡別研修会における漁協女性部活動実績発表は、震災後では初の実施となり、復興に向けた取り組みとしての組織強化・活動の活性化につながっていくものとなった。</p> <p>なお、研修会の席上、海上保安部ならびに県漁船海難防止連絡協議会のご支援をいただき L G L 団体委嘱式が行われたことは、救命胴衣着用徹底の良い啓蒙活動となった。</p> <p>【講演演目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九戸地区 演 題 「無添加のさんまの甘露煮をつくる」 講 師 復興水産販路回復アドバイザー 佐藤香織氏 ・下閉伊地区 演 題 「無添加のさんまの甘露煮をつくる」 講 師 復興水産販路回復アドバイザー 佐藤香織氏 ・上閉伊地区 演 題 「浜の母ちゃんパワーで浜に笑顔と元気を —大洗町漁協「母ちゃんのお店」絶賛営業中— 講 師 大洗町漁協女性部 川上悦氏 高橋早苗氏 ・気仙地区 演 題 「魚食普及に係る直売・6 次化・商品開発について」 講 師 復興水産販路回復アドバイザー 細川良範氏 		



課 題 名	岩手県漁業士会大船渡支部・宮城県漁業士会北部支部交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会大船渡支部	構成員数 (うち参加者数)	26名 (6名)
総事業費	34,010円	うち基金助成額	34,010円
事業の目的	他県漁業士との情報交換		
実施時期、 場所、参加 者等	<p>【日 時】平成27年8月28日(金)</p> <p>【場 所】宮城県気仙沼市</p> <p>【参加者】岩手県漁業士会大船渡支部参加者数：5人 宮城県漁業士会北部支部参加者数：12人</p>		
活動内容 (結果)	<p>・株式会社「水土舎」の麓貴光氏を講師に招き、「水産物の販売に関する近年の動向について～輸出の可能性も視野に入れて～」と題した講演を行った。</p> <div style="text-align: center;">  <p>麓氏の講演</p> </div> <p>・講演の後、それぞれの種類別(マガキ・ホタテガイ・ワカメ・マボヤ養殖、定置網漁業)に意見・情報交換を行い、出席者からは活発な発言があった。</p> <div style="text-align: center;">  <p>意見・情報交換</p> </div>		

5 平成 27 年度漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績

① 新規就業者(漁家子弟)確保支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	7	6,850,589
大船渡市	1	9,400
越喜来	3	1,722,087
吉浜	5	3,913,306
釜石湾	3	2,713,400
釜石東部	2	1,314,700
新おおつち	3	3,090,585
三陸やまだ	3	1,454,580
重茂	13	10,301,910
宮古	5	2,059,400
小本浜	1	260,960
田野畑村	2	2,320,528
野田村	1	911,756
久慈市	3	3,109,340
種市南	1	1,128,000
合計	44	32,995,067

③ 新規就業者(未経験)確保支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	2	3,095,134
大船渡市	3	3,113,030
綾里	8	7,120,202
越喜来	4	3,279,101
唐丹町	2	3,675,366
釜石湾	4	2,344,972
三陸やまだ	1	940,000
田老町	4	4,487,999
小本浜	2	1,869,456
普代村	3	6,768,000
種市南	2	2,449,663
合計	35	39,142,923

5 (2) 資格等習得支援事業実績

漁協名	資格名	受講者数	事業費
広田湾	小型船舶操縦士	1	115,990
大船渡市	小型船舶操縦士	1	110,480
綾里	小型船舶操縦士	3	301,460
越喜来	小型船舶操縦士	2	264,000
唐丹町	小型船舶操縦士	2	164,030
釜石湾	小型船舶操縦士	6	423,260
釜石東部	小型船舶操縦士	3	203,340
	フォークリフト	8	246,240
	小型移動式クレーン	8	226,550
	玉掛け	7	162,715
新おおつち	小型船舶操縦士	4	441,920
船越湾	小型船舶操縦士	2	226,470
三陸やまだ	小型船舶操縦士	4	446,850
重茂	小型船舶操縦士	2	219,660
	クレーン特別教育	6	61,710
田老町	小型船舶操縦士	1	115,990
小本浜	クレーン特別教育	2	41,140
	フォークリフト	2	61,560
	小型船舶操縦士	4	434,880
	第二級海上特殊無線技士	1	38,880
合計		68	4,500,195

6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この業務規程は、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

(業務運営の基本的事項)

第2条 基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

第2章 業務の種類及び業務の内容等

(事業の種類)

第3条 基金が行う事業は、次に掲げる青年等漁業者の確保育成対策に関する事業とする。

- (1) 漁業担い手確保対策事業
- (2) 漁業担い手育成対策事業
- (3) 青年等漁業者組織活動支援事業
- (4) 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業
- (5) 特別対策事業

(事業の目的、内容及び事業対象者)

第4条 前条に規定する事業の内容及び対象者は、別に定める公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（以下「業務細則」という。）に基づくものとする。ただし、前条の第1号から第3号の事業については、必要により基金においても実施できるものとする。

(助成の額)

第5条 第3条に規定する事業に対する助成額は、別に定める業務細則に基づくものとする。

(研修先及び研修期間等)

第6条 第3条に規定する事業の研修先及び研修期間等は、別に定める業務細則に基づくものとする。

第3章 事務手続き及び助成金の交付

第7条 第3条に規定する事業を実施し、助成金の交付を受けようとする者は、別に定める業務細則に基づく提出書類を期日までに代表理事に提出するものとする。

第4章 雑則

第8条 この業務規程の施行について必要な事項は、代表理事が別に定める。

附則

- 1 この規程は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。
- 3 この規程において従前から引き継がれる事業の助成の額は、第 5 条の規定にかかわらず、施行後の最初の年度に限り従前の例によるものとする。

附則

この規程は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。（第 3 条第 1 項第 3 号の事業名称の変更）

附則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。（公益法人移行に伴う名称等の変更）

7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

(趣 旨)

第1条 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務運営に関しては、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程第4条、第5条、第6条及び第7条の規定により、次のとおり定めるものとする。

(業務の内容)

第2条 基金が行う助成対象事業の内容は別表1のとおりとし、助成額（助成率）及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類等並びに重要変更の内容は別表2のとおりとする。

2 事業対象である「青年等漁業者」とは、概ね55歳以下（ただし、女性の場合にあっては特に制限を設けない。）の漁業者及び漁業を志向する者とし、「青年漁業者」とは、45歳以下とする。

3 対象事業は原則として一年度とする。ただし、別表3に掲げる事業については、その定めるところによる。

(助成金の申請)

第3条 助成金の交付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別表2の定めるところにより地区漁業担い手育成推進協議会（以下「地区協議会」という。）を経由し、原則として、事業を着手しようとする日の30日前までに代表理事に申請しなければならない。ただし、県段階の組織は地区協議会の経由を要しない（以下同じ。）。

(助成金の決定)

第4条 代表理事は、提出のあった申請の内容を審査し、その適否を決定し地区協議会を経由して申請者に通知するものとする。

2 代表理事は、助成事業の目的を達成するため、必要に応じ条件を付することができるものとする。

(変更承認申請書)

第5条 助成金の交付決定を受けた者（以下「助成事業者」という。）が、別表2に掲げる重要変更該当する事業変更を行おうとするときは、速やかにその定めるところにより事業変更承認申請書を、地区協議会を経由して代表理事に提出し承認を受けなければならない。

(事業の中止)

第6条 助成事業者が、事業の遂行ができなくなったとき又は中止するときは、助成事業中止届を、地区協議会を経由して代表理事に提出し指示を受けるものとする。

(助成金の請求及び実績報告書)

第7条 助成事業者は、事業を完了した日から30日以内に、助成金請求書に実績報告書を添付し、地区協議会を経由して代表理事に提出しなければならない。

(助成金の交付)

第 8 条 助成金の交付は、原則として事業完了後に行う。ただし、やむをえない事情がある場合には、助成金の一部又は全部を前金払いで受けることができる。

(交付決定の取消)

第 9 条 代表理事は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当する場合には、助成金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定に違反したとき又は第 4 条第 2 項に規定する助成金の決定に際し付した条件に違反したとき
- (2) 助成金を他の用途に使用したとき
- (3) 偽り、その他不正な手段により助成金の交付を受けたとき
- (4) 業務規程等に違反したとき

(助成金の返還)

第 10 条 助成事業者は、第 9 条の規定により助成金の交付を取り消された場合において、取り消しに係る部分に関し、既に助成金が交付されているときには、それを返還しなければならない。

2 前項の規定は、第 5 条の規定による助成金の交付の決定を変更した場合についても準用する。

(書類等の整備)

第 11 条 助成金の交付を受けた者は、その証拠書類、帳簿等を整理し、事業完了の翌年から 5 年間保管しなければならない。

附則

- 1 この細則は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 従前の財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。

附則

この細則は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。（別表 1,2,3 の助成額及び事業名称等の変更）

附則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。（公益法人移行に伴う名称等の変更）

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
1 漁業担い手確保対策事業			
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	<p>1 目的 地域の小中学生を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業への理解と憧れを形成する。</p> <p>2 内容 漁業の体験及び学習等(水産物の加工含む。)に要する経費(材料費、保険料、移動経費等)の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年等漁業者が組織する団体 ・漁業協同組合 ・青少年育成組織 ・水産高校等 	助成事業
(2) 水産高校等連携育成事業	<p>1 目的 水産高校等と連携して生徒の漁業に関する実践的な技術の向上を目的に行う現場実習等を支援し、漁業に対する理解と関心を高める。</p> <p>2 内容 (1) 生徒の現場実習経費の助成 (2) 技術者の学校での実践的指導経費の助成 (3) 漁業・加工技術等の共同研究等経費の助成 (4) 小中学校との連携に要する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者で構成する連携組織又は水産高校等 	助成事業
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	<p>1 目的 漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業就業意識を高める。</p> <p>2 内容 (1) 漁業の体験、現地見学会の開催等経費の助成 (2) 漁業就業に関する知識習得研修に係る経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会 ・漁業協同組合等 	助成事業
2 漁業担い手育成対策事業			
(1) 新規漁業就業者交流事業	<p>1 目的 新たに漁業に就業した青年等の漁業への取り組みを促進するため、情報交換等ネットワークづくりを進め、新規漁業就業者の早期定着化を図る。</p> <p>2 内容 新規漁業就業者(就業3年以内の者)の情報交換会を開催する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会 ・漁業協同組合等 	助成事業
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	<p>1 目的 新規漁業就業者(就業3年以内の者)が養殖業等自立経営を目指して、地元先達漁家において起業に必要な基礎的知識・技術を修得する場合に、受入経営体及び実践研修生に対して支援することにより、自立経営への円滑な移行を促進する。</p> <p>2 内容 (1) 受入経営体 地域において養殖業及び採介藻漁業を営む計画を有する新規漁業就業者の指導に要する経費(6月以上1年以内で25日以上指導)の助成 (2) 実践研修生 研修期間(6月以上1年以内)内に小型船舶操縦士免許を取得するための受講に要する経費(講習受講料) ただし、漁家子弟の場合にあっては親元での漁業従事を研修と看做することができる。</p>	<p>(1) 受入経営体(実践研修生と3等親内の者除く)</p> <p>(2) 実践研修生 次の要件を全て満たしていること ア 40歳未満の者 イ 6月以上研修を行う者 ウ 営漁する計画を有する者 ただし、漁家子弟にあってはイ、ウの条件は満たしているものと看做す。</p>	助成事業
(3) OJT研修支援事業	<p>1 目的 青年漁業者の国内先進漁家、企業体、市場等での研修又は課題解決能力向上のためのOJT研修を促進し、優れた青年漁業者の育成と地域漁業の中核者としての活動促進を図る。</p> <p>2 内容 (1) 国内先進漁家等技術研修受講経費の助成(1月以内) (2) 新規漁業就業者OJT研修経費の助成(3月以内)</p>	<p>(1) 青年漁業者、新規漁業就業者</p> <p>(2) 次の要件を全て満たす者 ア 県内において継続して5年間漁業に就業した青年漁業者 イ 研修終了後においても漁業に従事すると見込まれる者 ウ 研修計画を有する者</p>	助成事業

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
3 青年等漁業者組織活動支援事業			
(1) 研究グループ等活動事業	<p>1 目的 漁業経営や漁家生活等の発展向上を図るため研究開発及び研究実践活動又は経営改善研修及び各種資格取得研修の開催・受講に取り組む漁業青年等グループの自主的活動を支援し、漁業青年等の創造性と研究実践意欲の高揚及び漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 研究実践活動経費の助成 漁業生産技術の開発・導入試験、水産物の加工技術の開発研究、生産物の付加価値向上試験、漁業及び生活に関する研究実証、新産地育成・むらづくり活動等に要する経費(材料費等) (2) 研修活動経費の助成 漁業技術修得、経営改善、水産物加工技術修得、各種資格取得等の活動に要する経費(旅費、受講料、講師謝金、会場費等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年等漁業者3人以上で構成されかつ漁業又は漁家生活等の研究活動を推進する目的で組織されているグループ(以下「青年等グループ」という。) 	助成事業
(2) 青年等交流活動促進事業	<p>1 目的 グループ活動の活性化や青年等漁業者の資質向上を図るため地区又は全県範囲で開催する情報交換会や活動実績発表大会及び青年等グループの都市・漁村間交流等の活動を支援し、意欲ある担い手の育成と漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 情報交換会の開催及び都市・漁村間等交流に要する経費の助成(会場費、講師謝金・旅費、材料費、交通費等) (2) 地区活動実績発表大会開催経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区又は全県範囲で主催する実施組織 ・ 青年等グループ 	助成事業
(3) 地域リーダー研修事業	<p>1 目的 漁村地域リーダー相互の情報交換等を通じ地域リーダーとしての資質の向上を図るとともに、その自主的活動を促進する。</p> <p>2 内容 漁業生産、漁村、漁家生活等の環境づくり及び地域の担い手育成等漁村の活性化を推進するリーダーの育成を目的とした地区又は全県範囲の研修会等の開催に要する経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区又は全県範囲で主催する実施組織 	助成事業
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業			
(1) 地区協議会活動事業	<p>1 目的 漁業担い手対策を総合的に推進するため、大船渡、釜石、宮古、久慈の各地区に設置されている地区漁業担い手育成推進協議会に対し活動費等を交付し、地区の漁業担い手対策に資する。</p> <p>2 内容 地区協議会活動費の交付</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区協議会 	助成事業
5 特別対策事業			
(1) 特認事業	<p>漁業後継者及び漁業担い手を確保、育成するために理事長が特に実施する必要があると認める事業。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区協議会等 	助成事業
(2) その他事業	<p>基金が自ら実施する事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規漁業就業者等 	主催事業

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
1 漁業担い手確保対策事業							
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	1団体 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第1号 第2号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第1号 第2号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 水産高校等連携育成事業	1団体 100万円以内 【対象経費】 生徒指導に係る材料費、謝金、技術者派遣旅費、共同研究等・小中学校連携に係る材料費	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第3号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第3号 任意 任意	助成金額の20%を超える減	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	1事業 15万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第4号 第5号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第4号 第5号 任意	助成金額の20%を超える減	
2 漁業担い手育成事業							
(1) 新規漁業就業者交流事業	1事業 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第6号 第7号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第6号 第7号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	・受入経営体	1経営体 30万円以内/年額 (指導に要する経費)	①交付申請書 ②実施計画書 ③営漁プラン ④漁協推薦書	第8号 第9号 第10号 第11号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第8号 第9号 任意	助成金額の20%を超える減
	・実践研修生	10万円以内 (小型船舶操縦士免許講習受講経費)	①交付申請書	第12号	①交付請求書 ②実績報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第12号 任意	助成金額の20%を超える減
(3) OJT研修支援事業	・国内先進漁家等技術研修(1月以内)	1人 10万円以内 【対象経費】 研修機関等への納入額、交通費、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ③身上調書 ④漁協推薦書	第13号 第14号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第13号 第14号 任意	研修先の変更
	・新規漁業就業者OJT研修(3月以内)	1人 30万円以内 【対象経費】 研修指導者謝金、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ④身上調書 ⑤漁協推薦書	第17号 第18号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第17号 第18号 任意	助成金額の20%を超える減

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
3 青年等漁業者組織活動支援事業							
(1) 研究グループ等活動事業	・研究実践活動	1課題 30万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第19号 第20号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第19号 第20号 任意	研究課題及び研修先の変更 助成金額の20%を超える減
	・研修活動	1グループ 20万円以内					
	・資格取得活動	1グループ 20万円以内(1/2以内)					
(2) 青年等交流活動促進事業	・情報交換、交流等活動	1事業 20万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第21号 第22号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第21号 第22号 任意	助成金額の20%を超える減
	・地区活動実績発表大会	1事業 10万円以内					
(3) 地域リーダー研修事業		1事業 10万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第23号 第24号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第23号 第24号 任意	助成金額の20%を超える減
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業							
地区協議会活動事業	別途定める		①交付申請書 ②事業計画書(協議会の計画) ③規約	第25号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第25号 任意 任意	助成金額の20%を超える減
5 特別対策事業							
特認事業	別途定める		①交付申請書 ②実施計画書 ③規約	第26号 第27号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第26号 第27号 任意	助成金額の20%を超える減

注:1 事業を複数年に渡って申請するに際し、その内容に変更がない場合は、翌年度以降の添付書類を省略することができる。

2 上記以外の手続きの様式は、次のとおり。

変更承認申請書 (第5条関係)	様式第 29 号
事業中止届 (第6条関係)	様式第 30 号
前金払い請求書 (第8条関係)	様式第 31 号
助成金交付決定通知書 (第4条関係)	様式第 32 号

細則 別表3(第2条関係) 事業実施期間

事業名	実施期間
1 漁業担い手確保対策事業	
水産高校等連携育成事業	平成23年度から平成27年度
2 漁業担い手育成事業	
新規漁業就業者技術研修事業	年度を跨ぐ場合は当年度と次年度
3 青年等漁業者組織活動支援事業	
研究グループ等活動事業	最長3年(1課題)